

西語	沼田 豐吉	富山縣平民
英語	Charles Gussy Coningham	英國人
英語	苦米地 英俊	長野縣平民
倫理	東京高等師範學校教授 上條 辰藏	長野縣平民
經濟學	文學士 藤井 健治郎	山形縣平民
東京帝國大學農科大學教授法學博士	矢作 榮藏	沖繩縣平民
囑託		
衛生監督	菅能 近一	愛媛縣平民
柔道及擊劍教師	鈴木 鐵造	東京府平民
書記		
庶務課主任	文學士 松本 義顯	和歌山縣平民
會計課主任	吉村 頼信	東京府士族
會計課勤務	平野 銓三	東京府士族
圖書掛勤務	稻葉 宇作	新潟縣平民

庶務課勤務

雇員

庶務課勤務
 教務課勤務
 會計課勤務
 會計課勤務
 教務課勤務
 圖書掛勤務

菅谷 兼次郎	石川縣士族
屋代 七吉	埼玉縣平民
野中 曠	香川縣士族
竹田 顯義	長崎縣士族
望月 富貴男	東京府士族
內藤 昌滿	静岡縣士族

東京外國語學校規則

(明治四十二年三月改正)

第一章 總則

第一條 本校ハ外國語ニ熟達シ實務ニ適スヘキ者ヲ養成スル目的ヲ以テ歐洲及
 東洋ノ近世語ヲ教授スル所トス
 第二條 學科ハ分チテ英語學科佛語學科獨語學科露語學科伊語學科西語學科清
 語學科及韓語學科トス
 第三條 修業年限ハ三箇年トス
 第四條 本校ニ專修科ヲ置ク其規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章 學科課程
 第五條 各語學科ノ學科目及ヒ其程度左ノ如シ
 本科

英語學科													
科目	倫理	英語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操	計	學年		
											第一學年	第二學年	第三學年
倫理	一	二	二	二	二	二	二	二	二	三	一	一	一
英語	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
國語漢文	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
言語學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
法學通論	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
經濟學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
國際法	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
教育學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二

獨語學科													
科目	倫理	獨語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操	計	學年		
											第一學年	第二學年	第三學年
倫理	一	二	二	二	二	二	二	二	二	三	一	一	一
獨語	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
國語漢文	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
言語學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
法學通論	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
經濟學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
國際法	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
教育學	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
體操	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二
計	二	二	二	二	二	二	二	二	二	三	二	二	二

學科課程

伊語學科										
科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		倫理	伊語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操
計		一	二	二	二	二	三	三	三	三〇九
倫理		一	二	二	二	二	三	三	三	〇九
伊語			二	二	二	二				
國語漢文			二	二	二	二				
言語學			二	二	二	二				
法學通論			二	二	二	二				
經濟學				二	二	二				
國際法						二	二			
教育學							二	二		
體操									三	
計		一	二	二	二	三	三	三	三	三〇九

清語學科										
科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		倫理	清語	英語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學
計		一	一八	四	二	二	二	三	三	三〇九
倫理		一	一八	四	二	二	三	三	三	〇九
清語			一八	四	二	二				
英語			四	二	二	二				
國語漢文			二	二	二	二				
言語學			二	二	二	二				
法學通論			二	二	二	二				
經濟學				二	二	二				
國際法						二	二			
教育學							二	二		
體操									三	
計		一	一八	四	二	二	三	三	三	三〇九

西語學科										
科目	學年	第一學年			第二學年			第三學年		
		倫理	西語	國語漢文	言語學	法學通論	經濟學	國際法	教育學	體操
計		一	二	二	二	二	三	三	三	三〇九
倫理		一	二	二	二	二	三	三	三	〇九
西語			二	二	二	二				
國語漢文			二	二	二	二				
言語學			二	二	二	二				
法學通論			二	二	二	二				
經濟學				二	二	二				
國際法						二	二			
教育學							二	二		
體操									三	
計		一	二	二	二	三	三	三	三	三〇九

研究科

科目	學年	
	第一學年	第二學年
語學	一〇	一〇
教育學	×六	×六
經濟學	×六	×六
外國史	×六	×六
計	一六	一六

備考

- 一、表中×ヲ附スル同一學年内ノ學科目ハ生徒ノ選擇ニ依リ其一ヲ課ス
- 二、各語學科第二學年若クハ第三學年ノ語學時間内ニ於テ當該各國ノ歴史地理及文學ノ大要ヲ教授スヘキモノトス
- 三、必要ト認ムル場合ニハ第一項ノ毎週教授時間ヲ増減シ若クハ科外講義ヲ開キ必要ナル補習學科ヲ教授スルコトアルヘシ
- 四、研究科ハ時宜ニヨリ某學科ニ就テハ本科ノ教授時間ニ合併教授スルコトアルヘシ

第六條 第二學年以上ノ者ハ學校長ノ許可ヲ經テ其所修語學科以外ノ專修科ヲ兼修スルコトヲ得

第三章 學年、學期及休業

第七條 學年ハ四月十一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 自四月十一日 至七月十日

第二學期 自九月十一日 至十二月二十四日

第三學期 自一月八日 至三月三十一日

第九條 年中休業日左ノ如シ

一 春季休業 自四月一日 至四月十日

一 夏季休業 自七月十一日 至九月十日

一 冬季休業 自十二月二十五日 至翌年一月七日

一 祝日

一 大祭日

一 日曜日

第四章 入學、在學及退學

第十條 入學期ハ每學年ノ始メトス但必要ノ場合ニ於テハ或語學科ニ限り臨時

學年、學期及休業、入學、在學及退學

入學ヲ許スコトアルヘシ

第十一條 本校ハ時宜ニ依リ所設語學科中或語學科ノ生徒募集ヲ爲サ、ルコトアルヘシ

第十二條 左ノ資格ヲ有スル者ニシテ品行方正身體健全ナルモノハ試験ノ上第一年級ニ入學ヲ許可ス

一 中學校卒業生

二 甲種商業學校卒業生

第十三條 專門學校入學者檢定規程ニ依リ檢定ニ合格シタル者

一 國語漢文

一 地理歴史

一 外國語(英、佛、獨ノ中隨意一科目)

第十四條 第二學年以上ニ入ラント欲スル者ハ先ツ第一學年ニ入ルニ必要ナル資格ヲ檢定シ尋テ其志望學年以下ノ各學年ノ各學科目ニ就キ試験ヲ行ヒ入學ノ許否ヲ定ム

第十五條 退學シタル者同一ノ語學科ニ再入學ヲ出願スルトキハ退學後三ヶ年以内ニ限リ入學期ニ於テ試験ヲ須キス原級以下ニ入學ヲ許スコトアルヘシ
本校某語學科卒業生ニシテ更ニ他ノ語學科ニ入學ヲ請フトキハ入學期ニ於テ試験ヲ須キス入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十六條 入學志願者ハ第一號書式ノ履歷書ニ卒業シタル當該學校長ノ卒業證明書又ハ檢定合格證明書ヲ添ヘ指定ノ期日內ニ於テ本校ニ差出スヘシ

第十七條 入學志願者ハ試験料トシテ金參圓ヲ納付スヘシ但既納ノ試験料ハ如何ナル事情アルモ之ヲ返付セス

第十八條 入學ヲ許可セラレタル者ハ入學料トシテ金壹圓ヲ納付スヘシ

第十九條 在學中ハ他ノ語學科ニ轉スルコトヲ得ス

第二十條 生徒ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ除名ス
一、學力劣等ニシテ二學年ヲ超ユルモ尙進級スル能ハサル者

二、引續キ一ヶ年以上缺席シタル者

三、正當ノ事由ナクシテ引續キ一ヶ月以上缺席シタル者

四、出席極メテ不規則ナル者

第二十一條 退學セント欲スル者ハ其事由ヲ詳記シ(病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ)出願スヘシ

第一號書式 (用紙半紙) 以下本校ニ差出スヘキ書類皆同シ

履歷書

族 籍

志望學科

氏 名 印

現住所

生年月日

入學在學及退學

學業

一、何年月日何地官公立何學校ニ入り何學科何年級修業或ハ全學科卒業

賞罰
一、何年月日何所ニ於テ何々ニ付賞又ハ罰
以上
年月日

第五章 試業、進級及卒業

第二十二條 學年試業ハ學年ノ終リニ於テ該學年間履習シタル科目ニ就キ之ヲ施行ス

第二十三條 評點ハ各科目甲乙丙丁戊ノ五種ニ分ツモノトス

第二十四條 各科目ノ學期評點ハ其學期間ノ日課評點ヲ考查シテ之ヲ定ム但日課評點ヲ採ラサル科目ニ於テハ試業ヲ行ヒ學期評點ヲ定ムルコトヲ得

第二十五條 各科目ノ學期總評點ハ第一學期及第二學期ノ學期評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十六條 各科目ノ學年評點ハ學年試業點ト學期總評點トヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十七條 學年總評點ハ各科目學年評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第二十八條 學年ノ終リニ於テ學年總評點丙以上ヲ得左ノ各項ノ一ニ該當スル

モノヲ及第セシメ其他ハ原級ニ止ム但平素缺席多キ者ハ本條ニ該當スルモ及第セシメサルコトアルヘシ

一、各科目ノ學年評點丙以上學年試業點及學期總評點丁以上ノ者

一、科目ノ學年評點丁ナルモ其學年試業點及學期總評點丁以上ノ者

一、二科目(但語學科ニ一科目ニ限ル)ノ學年評點丁ナルモ其學年試業點及學期總評點一ハ丙以上他ハ丁以上ノ者

一、科目ノ學年試業點若クハ學期總評點ノ中一戊ナルモ其學年評點丙以上ノ者

第二十九條 及第者ノ席次ハ學年總評點ヲ考查シテ之ヲ定ム

第三十條 無届ニテ試業ニ缺席シタルモノハ其評點ヲ戊トス

第三十一條 試業ヲ受クルコト能ハサル者其病氣ニ係ルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ事故ニ係ルモノハ其事由ヲ詳記シテ退試業ヲ出願スルトキハ之ヲ許スコトアルヘシ

第三十二條 原級ニ止メタル者ハ次學年ノ始ヨリ其ノ全科目ヲ再習セシム

第三十三條 本校所定ノ學科ヲ修メ其業ヲ卒ヘタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第六章 休學及缺席

第三十四條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ノ爲メ休學ヲ願出ツルトキハ詮議ノ上當該學年間之ヲ許可スルコトアルヘシ但病氣ノ場合ニハ醫師ノ診斷書ヲ添付

試業、進級及卒業、休學及缺席

スヘシ
 第三十五條 休學セルモノハ次學年ノ始ヨリ原級ノ全科目ヲ履修スルモノトス
 但休學ノ事由消滅スルトキハ休學中ト雖モ許可ヲ得テ出席スルコトヲ得
 第三十六條 兵役ニ服スルモノ又ハ戰時ニ於テ通譯トシテ從軍スルモノハ許可
 ヲ經テ休學シ事故止ミタル後原級ニ復スルコトヲ得
 第三十七條 休學ノ許可ヲ得タルモノニハ第二十條第一號ヲ適用セス
 第三十八條 病氣又ハ事故ノ爲メ缺席スル者ハ其當日ヨリ三日以内ニ届出ツヘ
 シ但病氣ノ爲メ五日以上缺席スル者ハ必醫師ノ診斷書ヲ添付スヘシ
 第三十九條 前條届出ヲ爲サル者ハ其情狀ニ依リ第二十八條但書ニ準シテ處
 分ス

第七章 授業料

第四十條 授業料ハ一學年金貳拾五圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム
 第一學期 八圓 四月十三日ヨリ同十五日マテ
 第二學期 九圓 九月十三日ヨリ同十五日マテ
 第三學期 八圓 一月十三日ヨリ同十五日マテ
 但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス
 第四十一條 前條ノ期日內ニ納付セサルトキハ未納中停學ヲ命シ其未納二週日
 ニ至ルモノハ除名ス

前項ノ理由ニ依リ停學ノ處分ヲ受クルコト一學年間二回ニ及フモノハ除名ス
 第四十二條 既納ノ授業料ハ何等ノ場合ト雖モ之ヲ返付セス
 第四十三條 休學ノ許可ヲ得タル者若クハ缺席數月ニ涉ル者ト雖モ授業料ヲ免
 除セス
 第三十六條ニ依リ休學ノ許可ヲ得タルモノハ次學期以後ノ授業料ヲ納付スル
 ニ及ハス
 第四十四條 第十條但書第三十六條後段第四十九條ノ場合ニ於テハ直ニ該學期
 ノ授業料ヲ納付セシム
 第四十五條 半途退學スルモノハ當該學期ノ授業料ヲ納付セシム

第八章 特待生

第四十六條 特待生ハ第二學年以上ノ本科生徒ニシテ學力優等品行方正ナル者
 ヲリ學校長之ヲ選フ
 第四十七條 學校長ハ每學年ノ末ニ於テ其學年ノ成績ニヨリ次學年ノ特待生ヲ
 指定ス
 第四十八條 特待生ハ一學年間授業料ヲ免除ス
 第四十九條 特待生ニシテ第四十六條ノ資格ヲ失フモノト認ムルトキハ直ニ特
 待生ヲ罷ム

第九章 貸費

第五十條 貸費金ハ官費又ハ官廳ノ委託金或ハ有志者ノ寄附金ヲ以テ之ニ充ツ

第五十一條 二學年以上ノ本科生ニシテ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修メ若クハ學力優等品行方正ナルモノ學費支辨ノ途ナキトキハ詮議ノ上年額金百圓以内ノ學費ヲ貸付スルコトアルヘシ但官費ヲ以テスル貸費ハ特別ノ保護ヲ要スル學科ヲ修ムル者ニ限ル

第五十二條 貸費ヲ受ケントスル者ハ修學ノ目的及貸費希望ノ理由ヲ詳記シ連帶保證人連署ニテ願出ツヘシ

第五十三條 貸費ヲ受ケタル者ハ第二號書式ニ準シ誓約書ヲ差出スヘシ

第五十四條 貸費ヲ受ケタル者ハ卒業ノ翌月ヨリ起算シ貸費ヲ受ケタル月數ニ二倍スル期限内ニ於テ其貸費金額ヲ月賦返納スヘシ

但第五十九條ノ場合及本人死去ノ場合ハ其貸費ヲ返納スルニ及ハス

第五十五條 貸費生ニシテ左ニ掲クル一ニ該當スルトキハ直ニ其貸費ヲ罷ム

- 一 學業懈怠若クハ成績不良ナル者
- 一 品行不良ノ者
- 一 休學シタル者

以上ノ各項ニ依リ貸費ヲ罷メラレタル者ハ第五十四條ニ準シ其已ニ受ケタル貸費ヲ返納セシム

第五十六條 貸費生ニシテ退學又ハ除名ノ處分ヲ受ケタル者又ハ病氣其他ノ事故ニ依リ退學スルモノハ其當日ヨリ三十日以内ニ已ニ受ケタル貸費金全額ヲ返納スヘシ

第五十七條 保證人死去又ハ其資格ヲ失フトキハ直ニ代人ヲ立テ更ニ誓約書ヲ差出スヘシ

第五十八條 有志者ヨリ貸費資金ヲ寄附セントスルトキハ其目的ニ從ヒ第三號或ハ第四號ノ書式ニ準シ開陳書二通ヲ差出シ學校長ノ承諾ヲ受ケタルモノトス

第五十九條 寄附者ハ貸費ヲ受ケタル者ニ對シ卒業後貸費ヲ受ケタル年數ニ均シキ期限内某事業ニ從事セシムルコトヲ條件トナスコトヲ得

第二號書式

印紙 誓約書

私儀今般御校貸費又ハ何々貸費相受候ニ付テハ御校貸費規定ヲ遵守(且卒業後ハ何々事業ニ從事)可致萬一違背ノ節ハ保證人連帶ヲ以テ返納金其他一切ノ責ニ任スヘク候仍テ保證人連署ノ上誓約候也

年 月 日

東京外國語學校何語學科生徒
本人 氏 名 印
現住所

保證人 族籍職業 氏 名印

現住所

保證人

族籍職業 氏 名印

現住所

東京外國語學校長宛

第三號書式

出金開陳書

何語學科生徒何名分學資トシテ金何圓也(或ハ年々金何圓何回)ヲ東京外國語學校ニ差出候間相當ノ生徒御選定貸與相成度候尤モ右生徒卒業ノ上ハ某事業ニ從事致サセ度儀ニ有之候間此旨豫メ誓約センメラレ度此段併セテ開陳候也

住所族籍

年月日

氏

名印

東京外國語學校長宛

第四號書式

出金開陳書

(何々貸費金ノ名目ヲ以テ)獎學ノ爲メ金何圓也(或ハ年々金何圓何回)ヲ東京外國語學校ニ差出シ候間相當ノ生徒御選定貸付相成度候尤モ右生徒卒業ノ上從事

ノ職業ハ別ニ制限不致候間貸付學資ハ御校規定ニ從ヒ返納致サセ更ニ他ノ生徒ニ御貸付相成度此段開陳候也

住所族籍

年月日

氏

名印

東京外國語學校長宛

第十章 研究生

第六十條 本校卒業生ハ學年ノ始メニ於テ學校長ノ許可ヲ經テ其所修語學科ノ研究生タルコトヲ得

第六十一條 研究生ノ在學期限ハ二ケ年トス

第六十二條 研究生ハ指導教授ノ指揮ニ依リ本校所設ノ科目ヲ選修スルコトヲ得

第六十三條 研究生ノ授業料ハ第七章ノ規定ニヨル

第六十四條 研究生其研究ヲ終リタルトキハ研究ノ結果ヲ報告ス可シ學校長ハ成績ヲ考查シタル上證明書ヲ授與ス

第十一章 選科生

第六十五條 一語學科中ノ一科目又ハ數科目ヲ選修センコトヲ出願スル者アルトキハ授業上差支ナキ場合ニ限り學年ノ始メニ於テ選科生トシテ入學ヲ許可

研究生選科生

第六十六條 選科生ハ其所選ノ科目ヲ學修スルニ堪ユル學力アルコトヲ要ス
 第六十七條 選科生ノ入學料及授業料ハ第十八條及第七章ノ規定ニ依リ之ヲ納付セシム
 第六十八條 選科生其所選科目ヲ修了シタルトキハ本人ノ申請ニ依リ修業證書ヲ授與ス
 第六十九條 選科生ニハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外總テ本校諸規則ヲ適用ス

第十一章 委託生

第七十條 本校ハ官廳又ハ會社學校等ヨリ其目的ヲ指定シテ本科生又ハ選科生ノ養成ヲ委託スル場合ニハ之ニ應スルコトアルヘシ
 第七十一條 會社學校ノ差出スヘキ委託願書ハ第五號書式ニ依ルヘシ
 第七十二條 委託生ハ總テ本科生若クハ選科生ト同一ノ取扱ヲナスモノトス
 第五號書式 委託願

族 籍
 氏 名
 年 齡

右者今般御校本科選科生トシテ何々語學科ニ入學爲致度尤モ本人在學中ニ係ル一切ノ責任ハ當會社(當學校)ニ於テ引受可申候本人履歷書相添此段相願候也
 何々會社(學校)

年 月 日

何

某

東京外國語學校長宛

第十三章 懲罰

第七十三條 規則及命令ニ違背スルモノ校内ノ風教ヲ害スルモノ又ハ惰怠不品行等生徒タルノ本分ニ背キタルモノハ其輕重ニ應シテ之ヲ處罰ス但處罰ハ德義ニ基キテ之ヲ斷シ單ニ形跡ノミニ拘ハラサルヘシ
 第七十四條 罰科ヲ分チテ戒飭、停學、退學ノ三種トシ戒飭ハ訓誨ヲ加ヘテ將來ヲ戒メ停學ハ一年間以内教室ニ入リテ修學スルコトヲ停止シ退學ハ學校ヨリ退學ヲ命スルモノトス

附 則

第七十五條 本規則ハ明治四十二年四月一日ヨリ實施スルモノトス

東京外國語學校專修科規程

委託生懲罰 東京外國語學校專修科規程

第一條 專修科ハ速成ヲ旨トシ本校所設ノ各語學ヲ教授スルモノトス
 第二條 專修科ハ職業ヲ有スルモノ若クハ特別ノ事情アルモノニ限り學校長ノ意見ニ依リ入學ヲ許可ス
 入學セントスル者ハ本校規則第十六條ノ履歷書ヲ差出スヘシ
 第三條 專修科ノ修業年限ハ二箇年トス
 第四條 專修科ノ授業時數ハ一週十時間トス但授業時間ハ午後四時半以後トス
 第五條 專修科第一學年ニ入ラントスル者ハ入學試験ヲ要セス但必要ト認ムルトキハ特ニ之ヲ行フコトアルヘシ
 第六條 專修科ハ學年ノ始ニ於テ入學ヲ許ス但第二學期ノ始ニ於テ試験ノ上入學ヲ許スコトアルヘシ
 第七條 專修科ハ時宜ニ依リ或語學科ノ生徒募集ヲ爲サ、ルコトアルヘシ
 第八條 專修科入學料ハ金壹圓トス但本校規則第六條ニ依リ兼修スル者及本校卒業生若クハ修業生ニシテ入學スルモノハ之ヲ納付スルニ及ハス
 第九條 專修科授業料ハ一學年金拾五圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム
 第一學期 金四圓五拾錢 四月十三日ヨリ同十五日マテ
 第二學期 金 六 圓 九月十三日ヨリ同十五日マテ
 第三學期 金四圓五拾錢 一月十三日ヨリ同十五日マテ
 但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス
 第十條 本校規則第六條ニ依リ兼修スル者及專修科生ニシテ所修語學科以外ノ

學科ヲ兼修スルモノニハ其兼修學科ニ對スル授業料ヲ半減ス
 第十一條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ許可ヲ經テ試業ニ缺席シタル者ニハ平常ノ成績ヲ參酌シ認定點ヲ付スルカ又ハ追試験ヲ受ケシムルモノトス
 第十二條 專修科ヲ修了シ一定ノ試験ヲ經タルモノニハ修業證書ヲ授與ス
 第十三條 專修科ヲ修了シタル者ニシテ尙ホ温習セント欲スルモノハ原級ニ留マルコトヲ得
 第十四條 專修科生ニハ本校規則第三章第四章第十九條第二十一條第五章第二十二條乃至第三十二條第七章第四十一條第四十二條第四十五條及第十三章ヲ適用ス

東京外國語學校東洋語速成科規程

第一條 東洋語速成科ハ實用ヲ主トシテ馬來語、ヒンドスタニ、語、タミル語及蒙古語ヲ教授スルモノトス
 第二條 入學志願者ハ本校規則第四章第一號書式ノ履歷書ヲ差出スヘシ
 入學ノ許否ハ學校長ノ意見ニ依リ之ヲ定ム
 第三條 修業年限ヲ一ケ年トシ左ノ三學期ニ分ツ
 第一學期 自四月十一日 至七月十日
 第二學期 自九月十一日 至十二月廿四日
 第三學期 自一月八日 至三月三十一日

- 第四條 授業時數ハ一週二十二時間授業時間ハ午後四時半以後トス
- 第五條 必要ト認ムル場合ニハ第四條ノ毎週教授時間ヲ増減シ若クハ科外講義ヲ開キ必要ナル補習學科ヲ教授スルコトアルヘシ
- 第六條 入學料ハ金壹圓トシ入學ノ際直ニ之ヲ納付セシム
- 第七條 授業料ハ一學年金二十圓トシ左ノ區分ニ依リ納付セシム
 - 第一學期 金七圓 四月十三日ヨリ同十五日迄
 - 第二學期 金七圓 九月十三日ヨリ同十五日迄
 - 第三學期 金六圓 一月十三日ヨリ同十五日迄
 但休日ニ當ルトキハ順次繰下クルモノトス
- 第八條 病氣又ハ止ムヲ得サル事故ニ依リ許可ヲ經テ試業ニ缺席シタルモノニハ平常ノ成績ヲ參酌シ認定點ヲ付スルカ又ハ追試業ヲ受ケシムルモノトス
- 第九條 速成科ヲ終了シ一定ノ試験ヲ經タルモノニハ修業證書ヲ授與ス
- 第十條 速成科生ニハ本校規則第九條第十九條第二十一條乃至第三十二條第四十一條第四十二條第四十五條及第十三章ヲ適用ス

附則

- 第十一條 第四條ノ授業時數ハ當分一週十八時間トス
- 第十二條 本校本科二學年以上ノ者及本校卒業生若クハ修業生ニシテ入學スル者ニハ第六條ノ入學料ヲ免除シ第七條ノ授業料ヲ半減ス

生徒心得

- 第一條 本校生徒ハ常ニ教育勅語ヲ遵奉シ須臾モ之ニ背カサランコトヲ期スヘシ
- 第二條 學業ヲ勵ミ規律ヲ守リ言行ヲ慎ミ苟モ生徒タル本分ヲ失フコトアルヘカラス
- 第三條 本科生ハ制服制帽ヲ着用シソノ他ノ者ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ
- 第四條 學校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ校内ニ於テ猥ニ會同スヘカラス
- 第五條 本籍氏名又ハ宿所ヲ變更シタルトキハ速ニ届出ツヘシ
- 第六條 凡ソ告示ハ之ヲ掲ケタル日ヨリ一般ニ知了シタル者ト認ムルヲ以テ常ニ之ニ注意スヘシ
- 第七條 校内所定外ノ場所ニ於テ飲食喫烟スヘカラス
- 第八條 本校生徒ハ學校長ノ許可ヲ經ルニアラサレハ他學校ノ入學試験ヲ受クルヲ得ス

本校制帽及制服規定

區分	製式	品質	色
服	脊廣形立襟	小倉織	黒、紺、藍、鼠、霜降
紐	矩火臺ニL字ヲ纏ヒ左右ニ羽翼ヲ張ル	眞鍮	金

生徒心得本校制帽及制服規定

襟	KEFD PISC 又ハ	眞	鍮	金
帽	海軍形	羅	紗	黒
帽	炬火臺ニL字ヲ纏ヒ 左右ニ羽翼ヲ張ル	L字眞鍮他ハ七寶	L字金他ハ銀色	

東京外國語學校圖書館規則

第一章 總 則

- 第一條 本校ノ圖書ハ總テ書庫ニ貯藏スルモノトス
- 第二條 圖書ヲ分チテ左ノ二種トス
 - 第一種 通常圖書
 - 第二種 特別圖書
- 第三條 本校職員卒業生及生徒ハ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受ケルコトヲ得
前項以外ノ者ニシテ本校ノ圖書ヲ閱覽シ又ハ借受ケントスルモノハ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第四條 卒業生及生徒ニシテ圖書ヲ借受ケント欲スルモノハ豫メ保證人ヲ立ツ
保證人ハ父兄又ハ東京市内ニ居住シ一家計ヲ立ツル者若クハ本校ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

- 第五條 掛員ノ外故ナク書庫ニ出入スルコトヲ得ス但職員研究生及前條ノ許可ヲ得タル者ニシテ圖書ノ檢索ヲ要スルトキハ此ノ限ニアラス
- 第六條 第二種ノ圖書ヲ閱覽シ若クハ借受ケントスルトキハ校長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第一種ノ辭書諸學科ニ通スル參考書及閱覽室備付ノモノヲ借受ケントスルトキ亦同シ
- 第七條 公用ニアラサレハ同一ノ圖書二部以上ヲ閱覽シ又ハ借受ケルコトヲ得ス
- 第八條 本館ハ圖書ノ委託ヲ受クルコトアルヘシ
前項ニ依リ委託セラレタル圖書ハ本校ノ圖書ト同一ノ取扱ヲナスヘシ

第二章 圖書借覽

- 第九條 圖書ヲ閱覽セントスル者ハ閱覽證用紙ニ式ノ如ク記入シテ之ヲ掛員ニ差出スヘシ
- 第十條 本科生ハ制服ヲ着用シ其他ノ者ハ圖書閱覽票ヲ携帯スルニアラサレハ閱覽所ヘ入ルコトヲ得ス
- 第十一條 選科生及専修科生ニシテ圖書ヲ閱覽セント欲スル者ハ學年毎ニ圖書閱覽票ノ交付ヲ受クヘシ
- 第十二條 圖書閱覽ハ閱覽所ニ於テシ他所ヘ携出スルコトヲ得ス

第十三條 生徒ハ一員ニ付同時ニ五冊以上ヲ閱覽スルコトヲ得ス
第十四條 閱覽所ニ在リテハ喫煙、音讀、談話等渾テ他人ノ防害ト爲ルヘキ行動ヲ爲スヘカラス

第十五條 閱覽所ハ休業ノ日ヲ除クノ外毎日午前八時ヨリ午後四時マテ之ヲ開ク
但土曜日ハ正午十二時限リトス

第十六條 圖書ヲ借受ケントスル者ハ之ヲ借用證用紙ニ認メ署名ノ上掛員ニ差出スヘシ

第十七條 圖書ノ貸付冊數ハ五冊ヲ以テ限度トス
但公用ノモノハ此限ニアラス

第十八條 生徒カ圖書ヲ借受ケント欲スルトキハ受持教授ヨリ保認證ヲ受ケテ掛員ニ差出スヘシ
但研究生ハ本條ノ規定ヲ適用セス

第十九條 本科生、選科生及專修科生ノ借受ケ得ヘキ圖書ハ教科書ニシテ本校ニ數部ヲ備フルモノニ限ル

第二十條 借受圖書ハ他人ヘ轉貸スルコトヲ許サス

第二十一條 借受圖書ハ七月十日迄ニ返納スルコトヲ要ス

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ其借受ケタル圖書ハ悉ク之ヲ返納スルコトヲ要ス

一 職員カ退職若クハ轉任スルトキ

二 生徒カ卒業、退學若クハ休學スルトキ

第二十三條 夏期休業中ハ職員ヲ除クノ外校長ノ許可ヲ得ルニアラサレハ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス但本條ニ依リ借受ケタル圖書ハ休業ノ末日迄ニ之ヲ返納スルコトヲ要ス

第二十四條 貸付シタル圖書ハ臨時返納セシムルコトアルヘシ
但點檢ノ爲メニスル場合ハ公用貸付ノ圖書ニ限リ掛員出張シテ檢閱スルコトアルヘシ

第三章 圖書檢索

第二十五條 圖書ヲ檢索セントスルトキハ其旨ヲ掛員ニ告ケ承諾ヲ得ヘシ但研究生ハ主任教授ヨリ保認證ヲ受ケ之ヲ掛員ニ差出シタル後本條ノ手續ヲナスヘシ

第二十六條 同時ニ五人以上書庫ニ入り圖書ヲ檢索スルコトヲ得ス

第四章 制裁

第二十七條 圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ修理ヲ加ヘシメ又ハ同一ノ圖書ヲ以テ償ハシム

但時宜ニ依リ修理費用又ハ相當ノ代價ヲ徵收スルコトアルヘシ

第二十八條 本則ニ違背シタルモノハ其輕重ニ從ヒ一定ノ期間又ハ無期限ニ圖書ノ閱覽及借受ヲ禁スルコトアルヘシ
但第二十二條ノ規定ハ本條ノ場合ニ準用ス

様式

(一) 圖書閱覽票

三寸九分

面 表

250	
東京外國語學校 圖書閱覽票	
語學科 科第 年 姓 名 自明治 年 月 日 至明治 年 月 日	語學科 科第 年 姓 名 自明治 年 月 日 至明治 年 月 日

分三寸二

備考 本票用紙厚紙ヲ以テ製ス

(二) 圖書檢索保認證

裏面

- 一本票ハ本學年間有効トシ次學年ニ於テハ更ニ引換交付スヘシ
- 一閱覽所へ入場ノ節ハ必ス本票ヲ携帶スヘシ
- 一本票ハ他人へ轉貸スルハ勿論汚染又ハ毀損等ノコトアルヘカラス
- 一本票ヲ遺失シタルトキハ速ニ届出ツヘシ
- 一卒業若クハ退學スルトキハ本票ヲ返納スヘシ

表ニ圖書掛ノ印

檢索保認證

語學科研究生

氏名

右へ圖書ノ檢索ヲ承認相成度候也

明治 年 月 日

主任教授 氏名印

(三) 圖書借受保認證

保認證

一何々何冊

右今般何々ノ教科書ニ相用ヒ

候條該生徒へ貸與相成度候也

明治 年 月 日

擔任教授 氏名印

(四) 保證書

東京外國語學校圖書館規則、圖書檢索、制裁

收入
印紙

保證書 (用紙半紙)

族、籍、語、科、氏、名

右之者貴校圖書ヲ借受ケ圖書館規則第二十七條ノ義務ヲ果サ、ルトキハ拙者ニ於テ一切其ノ責任ヲ負擔致スヘク候仍テ保證書如斯候也

族籍職業 保證人 氏 名 印

明治 年 月 日

住 所

東京外國語學校長宛

東京外國語學校圖書館委託圖書取扱手續

- 第一條 本校圖書館規則第八條ニ依リ圖書ヲ委託セントスルモノハ申込書ニ目錄ヲ添付シテ本校々長ニ差出スヘシ
- 第二條 本校ハ委託ニ應シ圖書ノ引渡ヲ受ケタルトキハ委託圖書預證ヲ交付ス但新聞紙雜誌等ニ對シテハ此ノ限リニアラス
- 第三條 新聞紙雜誌等ニシテ合本シタルモノハ書籍ト見做ス
- 第四條 圖書委託者ハ其ノ委託圖書ニ限リ之ヲ閱覽シ又ハ借受クルコトヲ得
- 第五條 委託圖書ノ保存上必要ナル修理ハ委託者之ヲ負擔ス

第六條 委託圖書ハ本校ノ都合ニヨリ委託ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトアルヘシ

第七條 圖書ノ委託期限ハ左ノ二種トス

- 一 通常期限 五箇年
 - 一 特別期限 委託者ノ希望ニ依リ本校之ヲ定ム
- 新聞紙雜誌等ハ前年分ヲ翌年三月迄ニ還付スルモノトス
- 第八條 前條ノ期限内ト雖モ委託者ノ希望ニ依リ止ムヲ得サルモノト認メタルトキハ其委託ヲ解除スルコトアルヘシ
- 第九條 委託期限滿了シタルトキハ委託者ノ希望ニ依リ引續キ委託ニ應スルコトアルヘシ

寄 附

本校設置以來金員建物其他ヲ寄贈セシモノ左ノ如シ

寄贈品及寄贈ノ名義	寄 贈 者
伊語ニ關スル圖書講求費及伊語學科生徒獎學給與金	伊學協會會長 侯爵 鍋島直大
柔道、擊劍道、場、端、艇	東京外國語學校々友會長 文學博士 高楠順次郎

東京外國語學校圖書館委託圖書取扱手續

本校生徒現員

(明治四十二年六月一日)

本科生

(氏名ノ上ニ〇印アルモノハ特待生ナリ)

英語學科第三年級

篠原新次郎 (東京)	飯田彌太郎 (東京)	須川綾雄 (静岡)	後藤半七郎 (山形)
澤西徹 (佐賀)	長谷川元吉 (島根)	玉垣一男 (徳島)	青柳耕亮 (島根)
小野直一 (山口)	安保太郎 (福島)	渡部平次郎 (島根)	須田耕一 (長野)
西野虎夫 (岡山)	氏家重一 (香川)	伊藤滋雄 (長野)	柳澤柳太郎 (長野)
片山俊 (長野)	小野田文助 (愛知)	若山芳重 (愛知)	齋藤治三郎 (千葉)
高野貢 (茨城)	吉田晋作 (三重)	川島廉吉 (東京)	

英語學科第二年級

種子島季彦 (鹿児島)	池島弘作 (新潟)	山本勘一 (岡山)	内田直 (岩手)
松井良平 (宮崎)	山本孝太郎 (和歌山)	河原正路 (長野)	武山清市 (岐阜)
松岡末吉 (東京)	藤田美廣 (静岡)	繁富助一 (山口)	田中清 (東京)
石田憲次 (山口)	渡邊修吾 (東京)	山脇義太郎 (兵庫)	今村方四郎 (長野)
戸田勳 (廣島)	小林男藏 (長野)	郷嘉敬 (栃木)	矢吹義亨 (栃木)
村松金作 (静岡)	河原慎男 (東京)	小林嘉七 (栃木)	中村克 (千葉)

英語學科第一年級

岸田豐吉 (東京)	今井要一郎 (群馬)	田邊恒 (宮城)
奥島太一 (東京)	香西亮一 (香川)	立川卓男 (徳島)
齋藤春雄 (北海道)	射手一三 (長野)	石田善太郎 (東京)

佛語學科第三年級

吉田耕一 (新潟)	新津米造 (長野)	谷活 (大分)	淺野利郷 (愛知)
大塚繁之助 (三重)	山谷稔 (岡山)	岡島清 (三重)	齋藤辰二 (新潟)
山田一 (千葉)	濱野末太郎 (栃木)	富樹周太郎 (佐賀)	松村時次 (石川)
岡田傳太郎 (徳島)	露崎厚 (千葉)	植田稔 (東京)	前田巖 (千葉)
岡村政次郎 (宮城)	海老澤兼吉 (長野)	小林信一 (東京)	上原光次郎 (京都)
加納道生 (大分)	平岩宣順 (愛知)	青山謙吾 (愛知)	清水清吉 (東京)
松田一郎 (群馬)	篠田理一 (愛知)	茂垣長作 (栃木)	淺山正路 (青森)
久保田貞充 (長野)	中島進治 (長野)	高岡英二 (山梨)	
松本三志 (新潟)	高崎準吉 (福岡)	原田武 (神奈川)	

佛語學科第二年級

名和田政一 (山口)	太谷男 (新潟)	和田富雄 (高知)	木村英三 (大阪)
小川隆三 (石川)	川口盛作 (千葉)	宮地光雄 (高知)	齋藤次郎 (秋田)
戸田喜太 (岡山)	西澤光英 (東京)	藤井善繼 (東京)	山本清治 (東京)
福本義亮 (山口)	松田重則 (奈良)	丹中龍吉 (岐阜)	
若目田三郎 (栃木)	池内緝 (東京)	丹羽全權 (富山)	

本校生徒現員 本科生

市村信男 (東京)	佐藤誠之松 (島根)	松尾憲三 (東京)	竹本勇夫 (福島)
◎太田靜雄 (福井)	大曲誠之 (長崎)	伊藤憲三 (東京)	岩見良輔 (山口)
◎松尾義雄 (山形)	田内定治 (愛知)	原田良夫 (德島)	青木乾吉 (京都)
鈴木利平 (德島)	金子庄三 (神奈川)	四島彌太郎 (山口)	
山下芳郎 (岐阜)	寺田祐三 (長野)	樋田昌隆 (山梨)	
和田善治 (山口)	大森鐵三 (愛知)	奥田茂隆 (高知)	
佛語學科第一年級			
水野龍男 (高知)	平田秀治 (新潟)	越中永藏 (北海道)	蘆野正 (東京)
行方照一 (千葉)	堀久吉 (山形)	花輪次郎 (東京)	高柳健治 (富山)
宮下時太郎 (千葉)	加藤傳次郎 (福井)	西川若海 (佐賀)	池田市太郎 (大阪)
大久保彦藏 (茨城)	木村浩甫 (兵庫)	衣川水門 (佐賀)	井上敬之 (秋田)
瀬頭禎史 (佐賀)	桑原龍興 (山梨)	富藤鐸二 (東京)	井谷川敬治 (三重)
森喜代彦 (東京)	鷲尾猛 (東京)	内藤照二 (愛媛)	酒井忠吉 (東京)
森山隆介 (島根)	渡邊巨 (千葉)	吉井章 (愛媛)	
西山弘吉 (和歌山)	阪本旭 (山梨)	村瀬信 (東京)	
獨語學科第三年級			
信國武尙 (山口)	市藏齊 (長野)	熊野修造 (山口)	奥野親吉 (兵庫)
中島精一 (東京)	中澤英二 (和歌山)	久保田貞宏 (長野)	戸賀崎一男 (埼玉)
馬場駿行 (福岡)	秋野源次郎 (神奈川)	木戸信次郎 (群馬)	比企員雄 (愛媛)
◎道部順 (千葉)	柴田勤次 (新潟)	荒川充雄 (熊本)	三好嘉平 (香川)
江坂幸次郎 (東京)	德森武雄 (三重)		川崎廉 (大阪)

獨語學科第二二年級

志摩源三 (神奈川)	新井精司 (東京)	光島靖雄 (愛知)	加藤操 (群馬)
◎齋藤元次 (東京)	阿藤助男 (熊本)	關虎之介 (茨城)	坂路英知 (福島)
山田俊治 (山口)	加藤福進 (岩手)	柿原貞貞 (福岡)	村田廣義 (大阪)
◎奥田元一 (大分)	原來高夫 (大分)	鹿野博史 (宮城)	鍋島直繩 (佐賀)
竹越英一 (新潟)	岡田漸夫 (東京)	波邊政吉 (岐阜)	三村正雄 (岩手)
中島眞一 (愛媛)	岡村茂 (東京)	菊池勝雄 (茨城)	八田新一郎 (三重)
小林胖 (東京)	中村那郎 (福井)	竹井篤 (東京)	阿部康藏 (岩手)
獨語學科第一一年級			
甲斐重興 (岐阜)	吉村眞雄 (北海道)	中川良二 (福井)	坂本龍二 (東京)
別府千代太郎 (長野)	佐藤寛吾 (大分)	津田正雄 (高知)	相川直三 (東京)
安威明 (東京)	倉田末雄 (長野)	島田政吉 (三重)	關山金三 (鹿兒島)
山内稻太郎 (愛知)	藤田敏雄 (東京)	清家清 (高知)	矢島仲三 (埼玉)
小磯寛 (東京)	松室健男 (東京)	平島清晴 (長野)	
竹中竹 (大分)	吉川速男 (石川)	植松五郎 (神奈川)	
前田陽之助 (東京)		山口正夫 (山梨)	
露語學科第三年級			
◎長澤武雄 (東京)	小林九郎 (長崎)	松島留吉 (三重)	島崎愛之助 (神奈川)
◎竹内仲夫 (三重)	矢部力雄 (群馬)	津田富藏 (三重)	阿部金藏 (青森)
俵内謹五郎 (茨城)	佐藤健一 (大分)	本戸不二雄 (福岡)	天草與一 (東京)

本校生徒現員 本科生

菅谷進 (千葉)	杉本正助 (岩手)	木倉喜代治 (千葉)
宮内茂美 (高知)	市川保一 (東京)	
露語學科第二級		
河村正一 (山口)	水野路加 (東京)	野坂亮太郎 (青森)
伊藤鐵三 (愛知)	宮村時一 (東京)	村岡澄二 (宮城)
鹽井爲三 (東京)	中村俊藏 (神奈川)	岩淵澄夫 (千葉)
堀季麿 (靜岡)	永原茂樹 (大阪)	片岡真寅 (千葉)
吉成雄治 (秋田)	朝倉虎次郎 (富山)	山口大 (東京)
露語學科第一級		
坪田亨 (福井)	米川正夫 (岡山)	豐原清雄 (神奈川)
宮崎義郎 (大阪)	宮川船夫 (山形)	國廣徹 (福岡)
吉田喜代太 (新潟)	松永榮治郎 (東京)	増田正雄 (宮城)
内村提壽 (熊本)	石井潛吉 (東京)	淺川爲吉 (山梨)
齋藤綠三 (東京)	高橋善吉 (愛知)	酒寄守行 (茨城)
成見大次 (新潟)	廣島觀一 (岡山)	大津信行 (東京)
伊語學科第三級		
奧田誠道 (京都)	丹羽與吉 (神奈川)	坂本常雄 (長野)
高田彰 (大分)	二藤眞 (東京)	
伊語學科第二級		

菅谷進 (千葉)	杉本正助 (岩手)	木倉喜代治 (千葉)
宮内茂美 (高知)	市川保一 (東京)	
露語學科第二級		
河村正一 (山口)	水野路加 (東京)	野坂亮太郎 (青森)
伊藤鐵三 (愛知)	宮村時一 (東京)	村岡澄二 (宮城)
鹽井爲三 (東京)	中村俊藏 (神奈川)	岩淵澄夫 (千葉)
堀季麿 (靜岡)	永原茂樹 (大阪)	片岡真寅 (千葉)
吉成雄治 (秋田)	朝倉虎次郎 (富山)	山口大 (東京)
露語學科第一級		
坪田亨 (福井)	米川正夫 (岡山)	豐原清雄 (神奈川)
宮崎義郎 (大阪)	宮川船夫 (山形)	國廣徹 (福岡)
吉田喜代太 (新潟)	松永榮治郎 (東京)	増田正雄 (宮城)
内村提壽 (熊本)	石井潛吉 (東京)	淺川爲吉 (山梨)
齋藤綠三 (東京)	高橋善吉 (愛知)	酒寄守行 (茨城)
成見大次 (新潟)	廣島觀一 (岡山)	大津信行 (東京)
伊語學科第三級		
奧田誠道 (京都)	丹羽與吉 (神奈川)	坂本常雄 (長野)
高田彰 (大分)	二藤眞 (東京)	
伊語學科第二級		
西語學科第一級		
水津壽助 (島根)	瀧澤二三郎 (新潟)	廻々木憲正 (東京)
富田謙一 (東京)	大蘆嘉三郎 (島根)	佐々木憲正 (東京)
加藤芳香 (富山)	畑中仙次郎 (兵庫)	宮部健三 (兵庫)
妹尾正男 (岡山)	橋本淺藏 (大分)	杉本光雄 (兵庫)
西語學科第二級		
田井佳太郎 (東京)	内田重一 (三重)	馬場留次郎 (靜岡)
四ノ宮安彦 (靜岡)	小松素介 (山口)	岡本俊 (和歌山)
垂水六雄 (大分)	西田鐵 (大分)	田村久治 (新潟)
長谷川武 (新潟)	◎水野勉 (新潟)	望月重治 (靜岡)
高月勝四郎 (群馬)	千葉寛道 (岩手)	小林哲之助 (新潟)
西語學科第三級		
◎内山岩太郎 (群馬)	山口鐵次郎 (富山)	佐幸田兼藏 (京都)
村岡玄 (群馬)	木村常純 (奈良)	長谷川義直 (香川)
阿保德哉 (青森)	石黒常吉 (群馬)	山口正之 (長崎)
山田中 (栃木)	齋藤利世 (山形)	中瀬眞一 (岡山)
西語學科第一級		
原基一 (靜岡)	關口昇三 (埼玉)	馬場庄三郎 (兵庫)
伊語學科第一級		
大江宗丸 (山形)	中戸川永治 (東京)	吉枝友德 (愛媛)
西語學科第一級		
兼房修三 (東京)		
西語學科第二級		
石山重雄 (山形)		
大地儀之亮 (兵庫)		
園田金藏 (靜岡)		
西語學科第三級		
牛尾正雄 (兵庫)		
濱田二男 (宮城)		
西語學科第一級		
伊藤藤保 (靜岡)		
吉良精一 (大分)		
小笠原實橘 (東京)		
福川薩然 (山口)		

本校生徒現員 本科生

清語學科第三年級

石堂重德(滋賀)	渡部誠(島根)	大鹽忠夫(栃木)	森本滋枝(鳥取)
◎安藤千代吉(千葉)	重田金輔(山口)	新井誠一(群馬)	近藤亮(東京)
渡邊昇吾(千葉)	武田秀三(高知)	天津莊一(東京)	高橋隆司(千葉)
西村雅義(愛知)	大塚彌(茨城)	高木銜鋪(愛知)	古屋謙道(福岡)
納富準一(佐賀)	梅宮源一(福島)	渡邊德太(熊本)	
波邊龜之助(静岡)	佐倉毅一(東京)	飯塚千代(茨城)	
中野高一(佐賀)	中村常彦(茨城)	門屋誠(山形)	

清語學科第二年級

小野健太郎(東京)	土屋彦俊(千葉)	高野猛(茨城)	海保文吉(千葉)
杉浦胤治(愛知)	高田良助(東京)	並木武雄(北海道)	伊藤吾吉(岐阜)
高橋四郎(福岡)	齋藤英一(長崎)	清水龜之助(三重)	宮島鹿雄(佐賀)
齋藤中七(宮城)	住吉良人(福島)	遠藤憲治(三重)	大地亮平(千葉)
◎小野澤三郎(静岡)	玉置萬壽二(和歌山)	五十嵐禎三(新潟)	齋藤仁吉(福島)
◎茂串元次(栃木)	加藤謙三郎(愛知)	杉山大(靜岡)	
	矢野藤助(栃木)	田村愛(鳥取)	

清語學科第一年級

小林德男(長崎)	佐藤留雄(岩手)	香川四郎(香川)	山崎英雄(茨城)
秋山庫治(千葉)	小貫健(茨城)	藤江憲造(埼玉)	渡會貞輔(山形)
西田精熊(鹿兒島)	青山殖(埼玉)	大草虎尾(長野)	金田宗次(岡山)

韓語學科第三年級

恩田忠次(東京)	附柴宇一(愛知)	仲本正秀(沖繩)	植木遷(岡山)
丸尾敏雄(岐阜)	荒木基一(北海道)	武田寧信(千葉)	小倉達二(東京)
石川明(神奈川)	山本惣治(新潟)	玉井貫三(愛媛)	坂井高一(佐賀)
吉田順三(東京)	天野眞文(東京)	星澤研壽(宮城)	高木富三郎(京都)
紅林英一(静岡)	米田祐太郎(東京)	横關直一(徳島)	

韓語學科第二年級

木村勝備(京都)	◎西村眞太郎(兵庫)	小林哲五郎(千葉)	
梅澤成一(北海道)	依田貞美(東京)	山口欽之亮(東京)	

韓語學科第一年級

樺野清久(鳥取)	芳賀正潔(三重)	齋藤湛(東京)	川浪淳平(佐賀)
◎奥山仙三(秋田)	山本外治(石川)	黒澤小二郎(千葉)	
寺田常治(茨城)	津山辨一(大阪)	内田蕭(兵庫)	

選科生

佛語學科第二年級

渡野保之(東京)	扇昌夫(長崎)	大瀧徳太郎(新潟)	大澤健哉(福島)
田川忠信(島根)	平野愛造(島根)	小田毅(長崎)	村上耻己(長崎)
萩谷二那(茨城)	石立正己(徳島)	吉野正夫(千葉)	杉山邦衛(青森)
瀧平三(長崎)	大河原實(福島)	福永市次(熊本)	茂手木知良(山梨)

本校生徒現員 選科生

秋草 愛一 (群馬)	佛語學科第一年級		
山縣 武夫 (東京)	小野 德三郎 (三重)		
倉石 眞三 (長野)	李 維翰 (清國)		
王 愷 澤 (清國)	獨語學科第二級		
波部 源五郎 (福島)	井上 繁則 (香川)	赤堀 研吉 (兵庫)	張 萬田 (清國)
井出 光輝 (廣島)	松野 十九三 (兵庫)	柴田 五郎 (山口)	董 鴻詩 (清國)
安藤 恒信 (愛知)	岩田 秀雄 (東京)		
加賀 藤吾 (佐賀)	余 欽 烈 (清國)		

醫學科

友貞 俊太郎 (山口)	西語學科第一年級		
長谷川 賢 (茨城)	上野 賢一 (長崎)		
菊地 豐吉 (福島)	清語學科第二級		
木下 國明 (長野)	韓語學科第二級		
水野 政吉 (愛知)	田崎 安榮 (東京)	菊田 熊太郎 (東京)	武井 茂 (京都)
門脇 探玄 (島根)	榎本 秋次郎 (東京)	土方 誠三 (東京)	稻富 龜吉 (兵庫)
村井 巳年 (大分)	熊谷 六郎 (岐阜)	多賀 義三郎 (東京)	高橋 隆司 (千葉)
坂中 鐵之助 (東京)	平野 長次郎 (愛知)	大岩 峯吉 (東京)	木下 末雄 (佐賀)
角田 不二雄 (東京)	○依 捨山 兼次郎 (茨城)	○天 津 莊 一 (東京)	磯 規 矩 馬 (福岡)
伊東 鹿造 (東京)	野村 於菟三 (奈良)	八吉 田 國 龍 (石川)	櫻 井 宗 吉 (東京)

專修科生

英語學科第二級

(氏名ノ上ニ〇印アルモノハ本科ヨリ兼修スルモノナリ)

本校生徒現員 專修科生

英語學科第一年級

○高遠藤	○茂串元	○速川英	○峰須賀	○福本義	○高橋常	○船越常	○千葉郁	○三田久	○吉田信	○山本眞	○北村薩	○佐々木	○富澤尚	○小中謙	○吉村達	○江口莊	○瀧村信	○加來金	○衛藤善
田治助	治作	元次	圭三	義亮	鉦三	常雄	郁治	太郎	暉郎	太郎	雄雄	信造	令吉	四郎	四郎	二郎	信男	升男	次郎
(東京)	(靜岡)	(栃木)	(東京)	(山口)	(長野)	(兵庫)	(宮城)	(靜岡)	(福岡)	(靜岡)	(東京)	(京都)	(山形)	(奈良)	(廣島)	(長崎)	(愛知)	(大分)	(大分)
○田卷銀	○高島正	○佐々木	○原田英	○岡本信	○大橋順	○馬橋佳	○吉田五	○小野澤	○朝倉芳	○吉川男	○久田才	○藤澤出	○尾城五	○青木憲	○遠藤憲	○山内無	○奥山三	○松尾敬	○山下芳
一郎	正俊	英夫	之助	三郎	太郎	助三郎	五郎	三郎	芳男	也男	次郎	來造	五郎	五郎	治郎	名三郎	三郎	次郎	三郎
(東京)	(香川)	(埼玉)	(大阪)	(東京)	(東京)	(埼玉)	(大坂)	(靜岡)	(東京)	(山形)	(愛知)	(東京)	(埼玉)	(群馬)	(三重)	(島根)	(秋田)	(岐阜)	(三重)
○原田真	○中川宗	○大木繁	○圓城繁	○野澤繁	○小泉太	○山梨太	○近藤太	○大西太	○岩崎太	○增井太	○古市太	○江川太	○小川太	○菅谷太	○本原太	○森川太	○正田太	○福崎太	○松崎太
夫太郎	太郎	繁太郎	繁太郎	繁太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎	太郎
(廣島)	(大坂)	(石川)	(千葉)	(新潟)	(東京)	(東京)	(高知)	(奈良)	(東京)	(三重)	(千葉)	(長崎)	(岡山)	(靜岡)	(東京)	(愛知)	(廣島)	(東京)	(長野)
○西島彌	○三藤治	○佐々木	○市川正	○岸田正	○須田正	○秋山正	○榎本正	○伊藤正	○小原正	○能勢正	○佐藤正	○丹野正	○沼野正	○杉浦正	○坂卷正	○阿部正	○岸部正	○川口正	○石川正
太郎	三郎	隆一	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆	正隆
(山口)	(三重)	(秋田)	(長野)	(滋賀)	(埼玉)	(栃木)	(東京)	(東京)	(鳥取)	(岡山)	(大分)	(福岡)	(山口)	(愛知)	(千葉)	(茨城)	(東京)	(千葉)	(東京)

日吉

豐(靜岡)

千葉 寬道(岩手)

○小林哲之助(新潟)

佛語學科第二年級

坂本健吉	中本司馬	山本和久	小本林	松本忠	坂本健吉	中本司馬	山本和久	小本林	松本忠
(長野)	(山口)	(神奈川)	(廣島)	(愛媛)	(長野)	(山口)	(神奈川)	(廣島)	(愛媛)
○丹羽與吉	○河本新	○中村新	○岩瀬久	○天野政	○天野政	○天野政	○天野政	○天野政	○天野政
(神奈川)	(山口)	(福岡)	(愛知)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)
○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆	○齋藤隆
(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)
○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石	○大瀨石
(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)	(山梨)

佛語學科第一年級

岡田雄一	原基一	朝倉次郎	宮村時一	○內田太	○山脇太	○武山清	○遠藤清	○深澤清	○小中清	○巽幸	津川福一
(栃木)	(靜岡)	(富山)	(東京)	(岩手)	(兵庫)	(岐阜)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)
○小石與三	○卷島武	○矢川武	○伊地知	○西松太	○石飛太	○村井太	○宮尾太	○西村太	○森田太	○山田太	板倉東海
(石川)	(茨城)	(和歌山)	(愛媛)	(島根)	(山形)	(新潟)	(大阪)	(茨城)	(茨城)	(茨城)	(東京)
○賀來興	○田中秀	○杉本伊	○今井吉	○平井吉	○藤田吉	○八田吉	○村田吉	○內藤吉	○辻野吉	○澤田吉	鹽澤直重
(大分)	(東京)	(靜岡)	(神奈川)	(福岡)	(茨城)	(京都)	(山形)	(愛知)	(愛知)	(愛知)	(山梨)
○中橋章	○高野章	○中野章	○神野章	○野田章	○長田章	○鶴田章	○久保章	○水田章	○水田章	○水田章	水田恭太郎
(京都)	(岐阜)	(岩手)	(岡山)	(福岡)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)	(東京)

本校生徒現員 專修科生

富士德治(奈良)
岡本武(千葉)
神谷重(東京)
○松田重(奈良)
荒井桂三(東京)

下山田正純(秋田)
篠原太(山梨)
佐和山六(神奈川)
細根孫治(千葉)
織田仙之助(東京)

内藤榮(德島)
武藤文龍(栃木)
坪田熊雄(福井)
中庭真(和歌山)
秋庭男(東京)

石野斐夫(福岡)
高山録太郎(東京)

獨語學科第一年級

佐藤真造(大分)
宇津萬(東京)
安部治(大分)
奥田治(青森)
吉田七郎(東京)
馬場時藏(埼玉)
安彦啓次(北海道)
高峯房吉(群馬)
鍋島忠房(高知)
近藤金一(愛知)
福田勝治(埼玉)
田中衛治(栃木)
松岡敬止(香川)
仲木賢治(兵庫)
佐々木介(福井)
秋田友男(德島)
藤森吉三(三重)
栗田俊三(東京)

山本龍造(茨城)
萩野住久(東京)
中村孝也(群馬)
衣斐賢治(岐阜)
岡角安雄(北海道)
小島佐太郎(埼玉)
岡島格(京都)
飯竹彦三(茨城)
天生目康平(栃木)
末國雅彦(栃木)
那須仙三(山梨)
島村三郎(山梨)
村形東三(東京)
小野健之助(高知)
小阪榮次(新潟)
竹島茂和(三重)
三好喜和(富山)

阪東榮吉(德島)
鈴木元美(福島)
市川弘次(石川)
福島政一(山口)
名和田英三(東京)
小村義人(東京)
西野義克(東京)
齋藤春雄(北海道)
栗田長敏(東京)
佐瀬長(千葉)
五木明砂(長野)
山本孝太郎(群馬)
新井仁一(群馬)
伊藤亮奎(愛媛)
田所亮太郎(高知)
藤井正三(岡山)
河野乙三(山口)

田内定治(愛知)
樋口利一(長野)
杏林正藏(東京)
小部環(東京)
岡部政雄(茨城)
富山善康(東京)
三善康太郎(東京)
中村孝三(長野)
小橋三吉(熊本)
行上常太郎(岡山)
出口平吉(大阪)
堀井祐(長野)
藤井正真(靜岡)
村地正司(神奈川)
水野善重(岐阜)
伊藤昌平(東京)
佐野正造(福岡)
鈴木正了(北海道)

坂本友則(京都)
九鬼五三郎(三重)
石山信一(東京)
宮原博一(山梨)
王振聲(清國)

露語學科第二年級

石龜守人(岩手)
加藤盛三(三重)
中野力太郎(東京)

前田儀作(東京)
松本圭亮(東京)
遠藤宗一(三重)

佐治喜一(福島)
黑澤準平(福井)
葛岡正次(宮城)

露語學科第一年級

大石千尋(福岡)
大木茂一(山梨)
鈴木熊太郎(東京)
伊藤英樹(高知)
渡邊喜三造(岐阜)
山根揆一(埼玉)

市川柳三郎(秋田)
石山福治(新潟)
茂木德音(長野)
○大森鐵三(愛知)
速水基治(大阪)
市橋熊藏(新潟)

勝田典康(東京)
青木貞治(北海道)
矢田部玉造(東京)
青沼謙次(靜岡)
藤井利舜(東京)
猪俣尙志(鹿兒島)

久野榮(東京)
武元利熊(鹿兒島)
江口素一(福岡)
西田與左衛門(東京)
工藤新(富山)

伊語學科第一年級

吉川秀吉(宮城)
加藤教榮(石川)

三善焯彦(京都)
今井明(東京)

鈴木金太郎(千葉)
清水智道(三重)

丸山與三郎(長野)

西語學科第二年級

鈴木眞靜(兵庫)
鈴木眞一(兵庫)

田山保世(東京)
富田義男(福島)

尾崎光美(宮城)
小川善三郎(秋田)

若林高彦(東京)

本校生徒現員 專修科生

西語學科第一年級

大野友一	廣瀬寛治	加藤藤助	土屋政次
喜多宗一	佐久間章	安井勉	湯木新平
磯木幸市	内ヶ崎壽一	檜物谷鐵五郎	菱井新三
五島要	熊木信吉	高津賢義	物部昌保
久保田丈太郎	武富咸一	長峰義雄	岡田雄三

清語學科第二年級

秩父固太郎	宮島沙	矢部力雄	中村米壽
片桐倍次	市川保一	鈴木辰太郎	内藤繁治
脇川文近	山田萬助	今井健彦	
宮崎太郎	小池二郎	土屋熊三	

清語學科第一年級

竹内源次	野崎義枝	占部莊三	橋口孝
井澤城	中村三藏	北條辨三	田邊廣
牧野近之助	仲井敬太郎	萱野義臣	伊東重四郎
服部鶴五郎	加藤良助	島田一	岡松象雄
千野幸助	羽田文吉	荒井龜彦	重實金三
加藤建次	足立萬二	中山島龜	
香西資治	長島良作	山口兵吾	
秋山廣省	岡崎震二	杉山喜平	

韓語學科第二年級

有山謙藏 (埼玉) 多田 闇 (鳥取) 佐藤桂七 (福島) 三好春雄 (東京)

韓語學科第一年級

彭城昌平 (東京) 大川初次郎 (栃木) 永山清馬 (高知) 山崎宗之助 (鹿兒島)
 山根藤七 (島根) 片岡徳方 (千葉) 長岡武重 (長崎) 御厨保太郎 (長崎)
 二宮詰士 (東京) 江利川晴永 (埼玉) 若杉陽藏 (大分)
 山口有好 (福岡) 大橋 矩 (東京) 野澤幸次郎 (石川)

東洋語速成科

馬來語

青山 虎太 (香川) 秋保俊治 (宮城) 本多成弘 (山形) 岩室哲次郎 (廣島)
 武富 喬 (佐賀) 荒川角次 (栃木) 齋藤作太郎 (東京)

ヒンドゥスタニ語

野口三郎 (新潟) 荒木長三郎 (京都) 鷹屋祐攝 (富山)
 山崎正士 (大分) 河村政任 (廣島) 石山善壽 (栃木)
 赤羽宇重 (長野) 小栗 明 (岐阜)

タミル語

和田逸三 (兵庫) 田宮時應 (秋田) 渥味 隆 (静岡) 渡邊 義秋 (石川)

本校生徒現員 東洋語速成科生

蒙古語

宮越健太郎(新潟) 三浦大太郎(青森) 高田治作(北海道) 土岐二郎(東京)
 二神 疑(熊本) 關家茂(鹿兒島) 高橋安親(新潟) 潘贊化(清國)
 折川信夫(大阪) 龍口守信(廣島) 猪狩重光(北海道)

本校生徒年齢表

科	別	最高			最低			平均
		年	月	日	年	月	日	
本科	第一年級	二七	五	月	一七	三	月	二〇、一
	第二年級	三五	五	月	一八	三	月	二二、二
	第三年級	三〇	三	月	一九	六	月	二三、一

本校卒業生及其就職ノ場所

英語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (十人)

陸軍教授陸軍士官學校付 星野 幹 (東京) 北海道函館商業學校教授 奥坂角太郎(徳島)
 青森縣第二中學校教授 星野 政吉(東京) 秋田縣橋手中學校教授 長 連 樹(石川)

長野縣飯田中學校教諭 波邊 謙二(三重) 東洋大學講師 松浦與三松(福井)
 東京外國語學校教授 片山 寛(長野) 高知縣第二中學校教諭 森川 乙猪(高知)
 山形縣庄内中學校教諭 高野 圭一(茨城) 福岡縣嘉穂中學校校長 芹澤 政衛(静岡)

明治三十四年七月第二回卒業生 (十一人)

佐賀縣小城中學校教諭 伴野 八郎(兵庫) 滋賀縣第二中學校教諭 隈川 豊(東京)
 大分縣中津中學校教諭 尼上 瀧太郎(福岡) 自家營業 古賀十二郎(長崎)
 東京高等師範學校教諭 上條 辰藏(長野) 大阪瓦斯株式會社社員 青柳 幹一(山梨)
 高知縣第一中學校教諭 高橋 行次(滋賀) 東洋移民會社社員 齋藤 千之(兵庫)
 北海中學校教師 高岡 讓(和歌山) 兵庫縣廳 平井 隼之助(大阪)
 死亡 中園 修吾(神奈川) 兵庫縣廳

明治三十五年七月第三回卒業生 (十九人)

死亡 伊藤 常重(三重) 大阪住友銀行員 山本 英造(東京)
 和歌山縣和歌山中學校教諭 伊藤 正胤(高知) 陸軍士官學校助教授 淵 七 巖(福岡)
 私立明治專門學校教授 大橋 榮三(東京) 栃木縣真岡中學校教諭 秋元 正四(東京)
 高知縣第四中學校教諭 小野 清一(東京) 浪花銀行神戸支店員 湯 淺 實(東京)
 三井物產會社大連支店員 奥村 勢一(佐賀) 三菱合資會社社員 宮崎 謙平(北海道)
 福島縣會津中學校教諭 桂田 次郎(島根) 積濟正金銀行桑港支店員 御子 榮一(長野)
 石川縣商業學校教諭 山崎 昭廣(滋賀) 神戶稅務監督局在勤 關 島 孫三郎(長野)
 米國エール大學在學 野田 久三郎(大阪) 野口兼太郎(東京) 鈴木 利貞(佐賀)

本校卒業生及其就職ノ場所 英語學科

明治三十六年七月第四回卒業生 (六人)

岩手縣遠野中學校教諭
長崎縣島原中學校教諭
新潟商業學校教諭

錦織 房之助 (岩手)
太田 立助 (京都)
小山田 千代壽 (青森)

自家營業
廣島縣廣島中學校教諭
三井銀行門司支店員

熊田 敏 (滋賀)
青木 松之丞 (島根)
赤羽 作郎 (長野)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十六人)

大分縣中津中學校教諭
三井物産會社名古屋支店員
自家營業
福井縣武生中學校教諭
京都府第二中學校教諭
帝國生命保險會社員
汽船會社橫濱支店員
廣島商業學校教諭

今 西 喜藏 (奈良)
長 谷 省二 (三重)
吉 田 曉三 (廣島)
木 多 石介 (福井)
小 野 越 (静岡)
加 唐 謙吉 (東京)
角 田 松次郎 (群馬)
中 村 叔平 (長野)

熊本縣玉名中學校教諭
京都府第一中學校教諭
德島縣德島中學校教諭
東京倉庫株式會社神戶支店員
三井物産會社新嘉坡支店員
兵務服務中
新潟縣柏崎中學校教諭
愛知縣第三中學校教諭

山田 藤助 (山口)
松 木 肇 (島根)
松 田 宗一 (宮崎)
安 田 政治郎 (東京)
齋 藤 二 (山口)
眞 鍋 良三 (香川)
清 水 家助 (兵庫)
杉 田 善次 (東京)

明治三十八年七月第六回卒業生 (十九人)

神戸郵便局在勤
文部屬
大阪教育生命保險會社員
新潟縣三條中學校教諭

岩 切 鳳 (鹿兒島)
井 上 正直 (愛媛)
石 黒 覺太郎 (東京)
西 尾 宣次郎 (大阪)
小 川 吉雄 (新潟)

養蠶講習所教師
青山女學院教師
富山縣富山中學校教諭
大藏屬
橫濱安藤商會員
長野縣長野中學校教諭

兼 弘 正雄 (鹿兒島)
田 所 正躬 (東京)
中 富 敏夫 (福岡)
奈 古 屋 英馬 (山口)
南 部 實吉 (高知)

長崎縣中學政島學館教諭
兵役服務中
在英國
神戸川崎造船所員
兵庫縣伊丹中學校教諭

宇 都 宮 浩 (大分)
上 田 義雄 (大分)
町 田 長種 (静岡)
藤 本 治郎 (愛媛)
淺 野 寅次郎 (岐阜)

高知縣商業學校教諭
三井物産會社員
在英國ニユーヨーク
神戸イサス商會員

吉 良 馬吾 (高知)
尖 戸 千穎 (愛媛)
城 谷 默 (東京)
仙 波 重義 (福岡)

在米國

選科修了生 (二人)
工 藤 慧達 (熊本)

中央商業學校講師

志 村 義夫 (群馬)

明治三十九年七月第七回卒業生 (三十人)

三光堂店員
在米國
大阪府北野中學校教諭
石川縣第四中學校教諭
富山縣高岡商業學校教諭
京都府清和中學校教諭
山形縣山形中學校教諭
憲兵講習所講師
栃木縣大田原中學校教諭
東京府第四中學校教諭
香川縣丸龜中學校教諭
和歌山縣和歌山中學校教諭
福島縣會津中學校教諭

林 修一 (愛知)
西 村 晃一 (山口)
細 江 逸記 (三重)
小 倉 二 郎 (千葉)
小 倉 鎬 (島根)
岡 健 夫 (山口)
岡 野 小太郎 (茨城)
鎌 田 敬四郎 (福島)
加 勢 任三 (東京)
横 地 真吉 (東京)
高 橋 勝三 (岡山)
坪 井 新次郎 (愛媛)
月 岡 豪 (岡山)

憲兵講習所教官
福岡縣豐津中學校教諭
福岡縣大野中學校教諭
香川縣高松中學校教諭
横濱オット、ライメルス商會員
茨城縣土浦中學校教諭
山口縣下ノ關商業學校教諭
東洋移民會社員
愛知縣第三中學校教諭
在英國
在米國
陸軍省囑託

中 澤 藤甫 (長野)
久 保 尊德 (東京)
矢 野 晋 (愛媛)
安 永 邦弘 (愛媛)
町 原 重光 (福井)
小 松 崎 茂光 (茨城)
桑 折 鐵次郎 (愛媛)
阿 比 留 榮 (長崎)
佐 々 木 賢治 (大阪)
岸 住 順藏 (兵庫)
來 住 順藏 (兵庫)
岸 本 光治 (大阪)
湯 下 惣一 (東京)

本校卒業生及其就職ノ場所 英語學科

愛知縣第二中學校教諭
日本銀行員

宮治 金藏(神奈川)
三俣 一郎(群馬)

青森縣第二中學校教諭
鹿兒島縣鹿兒島商業學校教諭

設樂 眞太郎(埼玉)
平田 正(鹿兒島)

明治四十年三月第八回卒業生 (三十人)

愛知縣農林學校教諭
嘉納塾監
東京外國語學校講師
兵務服務中
東京倉庫會社員
三井物產會社員
臺灣安平港ベイン商會員
三井物產會社名古屋支店員
鹿兒島縣加治木中學校教諭
大阪高等工業學校助教
兵務服務中
神奈川縣第三中學校教諭
內務屬
日本郵船株式會社員
第百銀行員
逓信屬

石川 清七(愛知)
若米地 英俊(長野)
大杉 延雄(静岡)
渡邊 蕭(大分)
堀川 義隆(東京)
河瀬 賢治(鳥取)
金子 猪八郎(栃木)
吉永 鐵次(熊本)
吉本 正秋(北海道)
谷 壯藏(山形)
高橋 清三郎(静岡)
高田 春作(富山)
田中 篤馬(山形)
根本 儀太郎(秋田)
中村 慎吾(山形)

長野縣大町中學校教諭
丁西銀行員
山口縣萩中學校教諭
三井物產會社門司支店員
栃木縣真岡中學校教諭
臺灣總督府中學校教諭
韓國京城水道會社員
兵務服務中
長野縣上田中學校教諭
三重縣四日市商業學校教諭
死亡
日本郵船株式會社員
福島縣磐城商業學校教諭

上田 知一(大分)
桑原 萬之丞(群馬)
山本 民之助(東京)
山元 章次郎(滋賀)
松澤 有治(佐賀)
松本 晋二(岡山)
河野 孝一(長野)
河野 三通士(大分)
生明 梅三郎(群馬)
佐伯 益豐(山口)
篠原 增之助(東京)
篠原 誠一(東京)
森 恕一(熊本)
妹尾 寛二(岡山)
鈴木 清八(福島)

明治四十一年三月第九回卒業生 (二十三人)

鳥取縣鳥取中學校教諭
新潟縣糸魚川中學校教諭

岩崎 實藏(鳥取)
鳥羽 多助(佐賀)

兵務服務中
島根縣隱岐商船學校教諭

大橋 聖光(茨城)
太田 眞輔(鳥取)

福岡縣東筑中學校教諭
鐵道院勤務
宮城縣刈田中學校教諭
秋田縣木庄中學校教諭
內務屬
兵務服務中
兵庫縣姫路中學校教諭
山梨縣甲府中學校教諭
南滿洲鐵道株式會社員(在大連)
愛媛縣松山中學校教諭

龜石 慎一郎(福岡)
高久 甚之助(三重)
多賀 義雄(岐阜)
岡田 顯善(山形)
榎岡 徹(山形)
上田 鍵司(鹿兒島)
安水 虎次(兵庫)
山田 篤郎(島根)
藤井 源吉(廣島)
近藤 春和(愛媛)

神戸商業學校教諭
大阪岩井商店員
千葉縣佐倉中學校教諭
埼玉縣埼玉中學校教諭
福井縣敦賀商業學校教諭
奈良縣郡山中學校教諭
外務省勤務
內務省勤務
佐賀縣佐賀中學校教諭

小林 廣正(長野)
合田 亨(新潟)
赤坂 芳次(埼玉)
早乙女 毅(栃木)
佐久間 經也(山梨)
喜多 尾秀二(京都)
岸田 英治(三重)
結城 喜三(福岡)
三宅 永之助(京都)

明治四十二年三月第十回卒業生 (二十八人)

熊本縣立農學校教諭
石川縣第二中學校教諭
佐賀縣唐津中學校教諭
兵庫縣姫路中學校教諭
宮城縣仙臺商業學校教諭
福岡縣豊津中學校教諭
自家營業

岩城 義三郎(岡山)
磯 矢剛(三重)
生島 知二(東京)
西脇 保治(新潟)
戸田 三郎(石川)
尼池 虎三郎(香川)
大村 秀太郎(東京)
若松 清太郎(鳥取)
片山 彦四郎(福岡)
春日 秀能(東京)
玉手 信二郎(大阪)

開城中學校教諭
廣島縣廣島商業學校教諭
新潟縣能生水産學校教諭
長野縣長野中學校教諭
福岡縣小倉中學校教諭
富山縣富山商業學校教諭
酒井商店員

中谷 義一郎(大阪)
宇井 忠清(千葉)
宇野 勇彦(徳島)
山田 喜代助(宮城)
山口 一郎(新潟)
馬淵 芳樹(岐阜)
藤野 武男(長野)
手塚 泰雄(福岡)
赤間 徳壽(富山)
齋藤 義雄(東京)
佐藤 權太郎(新潟)

本校卒業生及其就職ノ場所 佛語學科

岩手縣一ノ關中學校教諭 佐藤 強介 (秋田)
 岡山縣私立閑谷中學校教諭 木加 浩四郎 (岡山)
 群馬縣高崎商業學校教諭 岸 俊彦 (茨城)
 和歌山縣新宮中學校教諭 宮野 恭造 (廣島)
 愛媛縣松山中學校教諭 御手洗 諫一 (愛媛)
 京北中學校教諭 三島 和介 (東京)

佛語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (三人)

二宮 猪象 (香川) 宮崎 幹太郎 (大阪)
 瀧村 立太郎 (東京)

明治三十四年七月第二回卒業生 (九人)

東京外國語學校教授 瀧村 立太郎 (東京)
 三井物産會社員(在天津) 死亡
 尾 繁太郎 (德島) 成島 朝一 (靜岡)
 加藤 秀郷 (三重) 實業(在メルボルン) 松本 俊造 (千葉)
 武村 元藏 (東京) 名古屋陸軍地方幼年學校講師 兒玉 彌彦 (鹿兒島)
 熊木地方幼年學校講師 平岡 七郎 (靜岡)

明治三十五年七月第三回卒業生 (十七人)

大阪地方幼年學校教授 石谷 貴矩 (三重) 死亡
 福岡樟腦事務局長 井上 彌二郎 (東京) 南滿洲鐵道株式會社員
 三井物産會社名古屋支店員 西山 德太郎 (東京) 東京帝國大學法科大學生
 橫濱正金銀行里島支店員 小田 精吉 (東京) 辯護士
 東京相互興信所理事 笈田 敏野 (福井)

三菱合資會社神戸支店員 矢橋 春造 (京都)
 橫濱正金銀行神戸支店員 松島 榮 (靜岡)
 大阪稻畑商店員 小島 文八 (靜岡)
 淺野 千里 (長崎)
 遷信屬(在上海) 佐藤 武則 (長野)
 日本生命保險會社員 鹽山 要正 (東京)
 守 經雄 (東京)

明治三十六年七月第四回卒業生 (九人)

三井銀行橫濱支店員 池田 政雄 (鹿兒島)
 遷信屬 大内 敬一 (茨城)
 陸軍士官學校囑託 田久保 昌雄 (熊本)
 東京帝國大學法科大學選科生 山崎 一 郎 (青森)
 大阪三十四銀行員 小西 喬一 (和歌山) 死亡
 三井物産會社員 齋藤 武夫 (岡山)
 喜多川 清 (東京)
 島田 勝之助 (東京)
 尾藤 龍雄 (愛知)

明治三十七年七月第五回卒業生 (十二人)

自家營業 西村 潤藏 (神奈川)
 大倉組店員 道明 英次 (東京)
 日本銀行員 河合 義一 (兵庫)
 外務屬 若月 稔次郎 (茨城)
 橫濱オツベネメル商會員 川治 庄太郎 (福井)
 農商務屬 早川 忠哉 (山梨)
 三井物産會社臺南支店員
 三井物産會社神戸倉庫部員
 農商務省海外派遣實業練習生
 橫濱關部商店員
 在英國 農商務省勤務
 山口 鏗次郎 (新潟)
 小林 林次郎 (群馬)
 安藤 惟一 (東京)
 水澤 惟一 (東京)
 下川 正治 (東京)
 北島 耕造 (靜岡)

明治三十八年七月第六回卒業生 (十三人)

內務屬 土居 晴見 (高知) 丸善株式會社員 館村 甚治 (石川)
 東京帝國大學法科大學選科生 龜割 睦男 (長野) 日清精製石油株式會社員 高木 秀雄 (佐賀)

本校卒業生及其就職ノ場所 佛語學科

遞信屬

山口 作 郎 (秋田)

農商務屬

吉 良 歌 吉 (高知)

橫濱ベルギ領事館員

田 島 清 (高知)

橫濱正金銀行東京支店員

藤 木 文 彌 (埼玉)

内閣屬

町 田 梓 樓 (長野)

在清國

平 瀨 保 之 助 (福井)

遞信屬

青 木 英 彦 (東京)

通信屬(橫濱郵便局勤務)

森 田 安 吉 (香川)

選科修了生 (三人)

自家營業

大 杉 榮 (愛知)

東京帝國大學文科大學選科生

白 川 資 長 (東京)

明治三十九年七月第七回卒業生 (十四人)

遞信屬

今 井 富 次 (富山)

宮内屬

太 原 甫 吉 (靜岡)

東京帝國大學法科大學生

原 達 (岩手)

遞信屬

中 村 敬 一 (岡山)

姫路師團佛語教師

島 山 忠 (兵庫)

三井物産會社員

上 田 村 次 郎 (愛媛)

自家營業

林 庸 三 (東京)

東京郵便局勤務

松 丸 健 (東京)

遞信屬

西 川 亮 一 (東京)

遞信屬

古 川 敬 次 (佐賀)

三井物産會社神戸支店員

大 久 保 純 (東京)

板硝子販賣會社員

元 岡 敬 滿 (大分)

選科修了生 (二人)

三井物産會社神戸支店員

鈴 木 部 (福島)

明治四十年三月第八回卒業生 (二十人)

陸軍中央幼年學校助教

犬 飼 伸 (東京)

中央氣象臺書記

岩 動 孝 久 (岩手)

死亡

服 部 修 德 (熊本)

外務省翻譯官補

長 谷 川 國 三 (神奈川)

東京帝國大學文科大學選科生

蛇 川 要 (東京)

外務省翻譯官補

谷 口 正 敏 (兵庫)

東京帝國大學文科大學選科生

高 島 利 男 (香川)

死亡

成 毛 堅 之 助 (千葉)

外務省翻譯官補

中 根 信 尾 (東京)

東京帝國大學文科大學選科生

長 崎 春 義 (鹿兒島)

選科修了生 (三人)

大 西 重 太郎 (石川)

農商務省生絲検査所囑託

喜 多 山 松 之 助 (福井)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十五人)

海軍屬

板 倉 貞 男 (千葉)

大阪稅關勤務

今 泉 浩 亮 (福岡)

自家營業

四 尾 秀 吉 (神奈川)

京都帝國大學圖書館員

堀 田 正 和 (東京)

橫濱正金銀行大阪支店員

富 島 衛 士 (熊本)

外務屬

小 倉 定 爾 (鹿兒島)

東京帝國大學文科大學選科生

高 澤 貞 義 (富山)

外務屬

黑 坂 達 三 (兵庫)

兵務服務中

山 下 善 次 (佐賀)

本校卒業生及其就職ノ場所 獨語學科

明治四十二年三月第十回卒業生 (二十人)

猪飼 國道 (長野)
 井出 徳夫 (長野)
 原 博雄 (山口)
 萩田 傳三 (群馬)
 賀 來俊一 (滋賀)
 横山 承二 (東京)
 多川 格三 (大阪)
 高木 達也 (群馬)
 高木 弘 (鹿兒島)
 田邊 淺次郎 (東京)

選信省勤務

永井 房太郎 (東京)
 長山 俊雄 (茨城)
 前田 元四郎 (青森)
 増田 俊雄 (岐阜)
 益谷 秀次 (石川)
 近藤 健三郎 (東京)
 寺島 次郎 (東京)
 篠 憲三 (東京)
 茂木 楠次郎 (群馬)
 菅 浪平 (東京)

選科修了生 (二人)

中川 好助 (静岡)

獨語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (七人)

井手 岩吉 (佐賀)
 田代 光雄 (東京)
 中村 達雄 (山口)
 上村 哲二 (鹿兒島)

東京外國語學校助教
 (獨語留學中)
 死亡
 外務書記生
 (獨國伯林大使館勤務)

久野 英一 (愛媛)
 安樂 直治 (鹿兒島)
 弓削 久兵衛 (千葉)

明治三十四年七月第二回卒業生 (五人)

陸軍教授(仙臺地方幼年學校勤務) 磯 山 健 (茨城)
 死亡
 獨逸國留學中

新潟縣長岡商業會議所書記

丸 勝 藏 (千葉)
 佐々木 常二郎 (宮城)

明治三十五年七月第三回卒業生 (九人)

井門 荒次郎 (熊本)
 丹 羽 弘 (愛知)
 堀田 正次 (宮城)
 笠原 正樹 (長崎)
 田中 正之 (東京)

日本銀行員
 名古屋地方陸軍幼年學校講師
 東京府四ヶ原農事試験場勤務
 米國留學中

山本 開作 (神奈川)
 蘆 塚 利 仲 (長崎)
 青山 民子雄 (東京)
 齋木 延次郎 (廣島)

明治三十六年七月第四回卒業生 (十五人)

陸軍經理學校教授
 死亡
 帝國鐵道院勤務
 名古屋幼年學校講師
 日本銀行員
 慶應義塾講師
 式部官(休職)
 愛國生命保險會社員

自家營業
 內務局
 大藏省臨時國債整理局屬
 東北帝國大學講師
 東京帝國大學書記

中島 龜彦 (東京)
 蟲明 嘉源次 (岡山)
 赤尾 友三郎 (富山)
 秋元 喜久雄 (静岡)
 早乙女 新二 (東京)
 里 見 太 (長野)
 桐 川 攝 (千葉)

本校卒業生及其就職ノ場所 獨語學科

明治三十七年七月第五回卒業生 (十一人)

明治火災保險會社員 伊藤 英樹 (高知) 死亡
 樺太民政廳譯官 飯島 道信 (東京) 岡山醫學專門學校助教授
 自家營業 西原 泉之助 (愛媛) 門司獨逸領事館通譯
 神奈川縣通譯 大谷 基輔 (東京) 東京市役所勤務
 獨逸學協會學校教師 小笠原 昌齋 (山梨) 赤十字社翻譯係
 東京帝國大學法科大學選科生 渡邊 格太郎 (福岡)

選科修了生 (三人)

東北帝國大學講師 武田 久吉 (東京) 國民新聞社員 松岡 彦野 (熊本)

明治三十八年七月第六回卒業生 (九人)

丸善書籍株式會社員 塙 信吉 (茨城) 長崎市スクリー商館員 村上 竹藏 (福岡)
 東京帝國大學文科大學選科生 外山 高一 (東京) 仙臺醫學專門學校講師 國岡 三樹 (福島)
 成城學校講師 橫井 忠吉 (大分) 長崎醫學專門學校講師 鈴木 正武 (福島)
 死亡 高辻 豊 (埼玉) 京都鐘淵紡績會社絹絲工場囑託 魚住 清適 (福井)
 仙臺陸軍地方幼年學校助教授 竹崎 虎惣太 (高知)

明治三十九年七月第七回卒業生 (二十六人)

砲兵工廠譯官 井上 剛之介 (福岡) 外務省翻譯官補 飯田 安男 (大阪)
 陸軍省通譯生 石倉 一 (千葉) 橫濱獨逸總領事館員 長谷 敏 (岡山)
 中外印刷會社員 飯島 省一 (靜岡) 齋藤 精糖會社員 仁木 周藏 (新潟)

宇都宮師團講師 富永 清人 (熊本) 旭川師團講師 山地 英夫 (香川)
 京都醫學專門學校講師 奥野 七郎 (富山) 丸善株式會社員 安田 不二磨 (岐阜)
 風雲堂店員 和田 増平 (山口) 東京陸軍砲兵工廠勤務 山内 壽男 (栃木)
 第百銀行員 桂 俊真 (東京) 橫濱フアーパー、フホイクト 古賀 圓藏 (福岡)
 東京帝國大學法科大學選科生 吉崎 芳男 (神奈川) 三井物產會社員(在清國上海) 江塚 秀四郎 (静岡)
 丸善株式會社々員 田中 五郎 (廣島) 長崎高等商業學校講師 寺田 敏夫 (東京)
 獨逸士官ステツヘル附通譯 高林 盛彌 (東京) 橫濱フアーパー、フホイクト 坂本 忠恕 (廣島)
 內務省地方局勤務 向井 鐵次 (兵庫) 臺灣精糖會社員 島田 昌三 (群馬)
 梅木 旻 (大分) 關口 信次 (茨城)

選科修了生 (三人)

自家營業 野中 太一 (新潟) 農商務省囑託 藤原 佳信 (徳島)

明治四十年三月第八回卒業生 (十三人)

帝國鐵道院書記 伊丹 隆之助 (兵庫) 東京銚金會社員 早稻田 大學生 宇賀 彦太郎 (高知)
 東京銚金會社員 石井 禮司 (東京) 大阪シームス會社員 新井 重禮 (新潟)
 東京電燈株式會社員 大橋 完一 (埼玉) 高田商會員 巖岸 久治 (宮城)
 シームスシユツケルト會社 陸山 次郎 (福井) 神戸イリス商會員 南 修三 (兵庫)
 大阪支店員 多治見 國豊 (茨城) 大日本製糖會社員 宮家 壽男 (香川)
 日本勸業銀行員 瀧山 徹一 (廣島) 北海道炭礦汽船會社員 中島 優一 (廣島)

本校卒業生及其就職ノ場所 獨語學科

明治四十一年三月第九回卒業生 (十八人)

選信省勤務
 學習院圖書係
 長崎醫學專門學校助教
 東京帝國大學文科大學生
 兵役服務中
 東京二葉商會員
 金澤醫學專門學校
 南滿洲鐵道株式會社員(大連在勤)
 野口勝市(佐賀)

京都帝國大學法科大學生
 札幌控訴院講師
 京都帝國大學法科大學生
 横濱カイセル商會員
 農商務省勤務
 兵役服務中
 内閣局
 富山藥學校教諭

柳田民藏(福島)
 大谷豊顯(山形)
 大山壽(秋田)
 渡邊恒次郎(静岡)
 川瀬政七(滋賀)
 高村道利(東京)
 深澤輯熙(山梨)
 權田保之助(東京)
 今野秀輔(宮城)

選科修了生 (二人)

王佩文(清國)

明治四十二年第十回卒業生 (十五人)

神奈川縣通譯
 石澤春雄(山形)
 林正一(茨木)
 秘積茂(大分)
 岡村準一(山口)
 川中道(三重)
 川南盛利(東京)
 粕谷眞洋(福井)

谷田重好(滋賀)
 高橋新兵衛(宮城)
 高辻送(香川)
 巽斗勝一(奈良)
 山崎恩(福井)
 小柳篤二(新潟)
 昌忠(鹿兒島)

外務省勤務

鈴木啓介(福島)

露語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (六人)

梅田商店員
 日本郵船株式會社社員
 外務書記生(在露都)
 田中乙(福井)
 藤藤三平(埼玉)
 山口爲太郎(愛知)
 外務通譯生(在哈爾濱)
 樺太民政廳通譯官
 露國公使館譯司

吉澤孝吉(北海道)
 秋元義親(東京)
 鈴木尙三(東京)

明治三十四年七月第二回卒業生 (十人)

陸軍大學校講師
 三井物産會社浦鹽出張員
 陸軍教授
 浦鹽在留
 三井物産會社營口支店長
 井山孝平(東京)
 飯田愨(宮城)
 五十嵐清(岡山)
 和泉真之助(茨城)
 長谷川作次(石川)
 北方商店員
 自家營業

河村國松(岐阜)
 菅野金三郎(佐賀)
 近藤實五郎(神奈川)
 島田嘉一郎(埼玉)
 鈴木覺太郎(宮崎)

明治三十五年七月第三回卒業生 (七人)

關東都督府通譯
 大阪商船株式會社社員
 長崎地方裁判所通譯
 外務通譯生(在吉林)
 市川寅次郎(福岡)
 池田鍾太郎(東京)
 竹内秀三(長崎)
 村田乙三郎(東京)
 日本郵船株式會社社員
 日露貿易株式會社社員
 外務通譯生(在北京)

久網小次郎(愛知)
 股野貫之(兵庫)
 平塚若磨(茨城)

明治三十六年七月第四回卒業生 (十七人)

本校卒業生及其就職ノ場所 露語學科

死亡	伊崎 千秋 (岐阜)	死亡	日本郵船株式會社員	本 藤 謙二 (群馬)
參謀本部員	羽中 田 諄策 (山梨)	大阪商船株式會社員	淺 羽 卿 (東京)	鮎 貝 冬 雄 (長野)
外務書記生	緒 方 正 肅 (熊本)	在露部	櫻 井 又 雄 (熊本)	水 野 島 次 郎 (愛知)
外務通譯生(在浦鹽)	川 角 忠 雄 (愛知)	在露部	清 水 三 三 (山梨)	鈴 木 相 之 助 (福井)
梅田商店員	山下 義 雄 (山梨)	函館露國領事館譯司	鈴 木 新 吉 (東京)	
浦鹽東洋語學院講師	八 木 明 昌 (東京)	自家營業		
參謀本部員	松 田 衛 (大分)			
	藤 井 孝 八 郎 (栃木)			
	剛 崎 虎 雄 (熊本)			
在露部	石 井 直 真 (北海道)	明治三十七年七月第五回卒業生 (十三人)	山 岡 光 太 郎 (廣島)	
陸軍通譯	飯 泉 孫 次 郎 (茨城)		牧 野 左 馬 三 (大分)	
死亡	大 江 久 太 郎 (香川)		兒 玉 豊 彦 (鹿兒島)	
死亡	竹 津 樸 (石川)		栗 原 信 男 (東京)	
芝浦製作所員	長 澤 貞 貞 (栃木)		佐 和 彌 一 郎 (群馬)	
	植 田 一 夫 (神奈川)		北 島 常 晴 (東京)	
	熊 谷 直 吉 (秋田)			
元山稅關吏	選科修了生 (三人)	陸軍通譯	神 谷 薰 (北海道)	
	大 倉 勳 夫 (東京)			
	明治三十八年七月第六回卒業生 (二十四人)			

外務通譯生(在城津)	家 村 盛 吉 (鹿兒島)	樺太地方裁判所通譯	佐 藤 寛 (福井)
長崎高等商業學校講師	十 時 惟 親 (福島)	在浦港	酒 井 醇 (靜岡)
在大連	加 藤 明 (高知)		酒 井 泉 (佐賀)
帝國鐵道院勤務	谷 村 清 兵 衛 (富山)		木 村 恪 (愛知)
在浦鹽	高 畑 誠 一 (香川)		木 下 蕃 (廣島)
外務省留學生(在露部)	中 尾 秀 男 (東京)	長崎露國領事館譯司	三 夕 尻 邦 彦 (大分)
北海道函館商業學校教諭	浪 江 良 平 (埼玉)	大阪商船株式會社員	白 河 太 司 (新潟)
帝國鐵道院屬	黒 柳 良 之 助 (東京)	外務省通譯生	城 子 悌 二 郎 (長野)
在清國上海	藤 平 文 藏 (岩手)	外務省通譯生	島 田 正 靖 (高知)
露國公使館譯司	藤 井 董 (愛媛)		平 田 稔 (和歌山)
	石 門 勇 平 (福岡)		平 下 信 一 (廣島)
	新 井 三 郎 (群馬)		諸 岡 三 郎 (長崎)
自家營業	選科修了生 (三人)	函館監獄吏	倉 岡 義 三 (北海道)
日本郵船會社浦鹽支店員	原 田 三 平 (山口)		
關東都督府通譯	野 村 明 (北海道)		
在露部	伊 丹 正 雄 (熊本)	在浦鹽	川 原 鷹 助 (鹿兒島)
自家營業	大 井 包 高 (長野)	臺灣總督府モスコ市出張員	吉 田 榮 榮 (福井)
	小 川 基 一 郎 (千葉)	橫濱正金銀行員	高 島 榮 作 (茨城)
	加 藤 潔 (千葉)	死亡	檀 野 貞 記 (長崎)
浦鹽東洋語學院講師	川 上 秀 雄 (廣島)		竹 内 眞 道 (北海道)
本校卒業生及其就職ノ場所 露語學科			

南滿洲鐵道株式會社員 露國軍隊日本語教師 (在ニコリヌクウスリーキスー) 兵務服務中 熊澤商店員 南滿洲鐵道株式會社員 農商務省勤務 外務通譯生 浦鹽日本商店員	辻 光 (福岡) 内藤 報吉 (愛知) 中村 綱太郎 (東京) 長原 顯證 (石川) 上田 熊生 (大分) 野口 三郎 (新潟) 郡司 智慶 (北海道) 前田 茂穂 (福井)	南滿洲鐵道株式會社員 三菱合資會社長崎支店員 在露部 浦鹽日本人會書記 正金銀行鐵道支店員 露都留學 外務書記生(在營口) 農商務省勤務	藤井 十四三 (山口) 榎原 延吉 (東京) 甘利 四郎 (長野) 荒井 孫助 (富山) 滿田 保太郎 (山梨) 島田 元慶 (東京) 鈴木 鄰吾 (高知) 鈴木 鄰吾 (静岡)
死亡 兵務服務中 自家營業 三菱合資會社員 三井物產會社員 京都帝國大學々生 浦鹽日本商店員	伊藤 信一 (三重) 岩崎 直砥 (長野) 花俣 幸昌 (埼玉) 橋口 住又 (鹿兒島) 小笠原 儀雄 (山口) 川谷 幸左衛門 (島根) 高谷 弘 (青森) 内藤 政次 (新潟)	浦鹽日本商店員 帝國鐵道院勤務 三井物產會社員 南滿洲鐵道株式會社員 在浦鹽 哈爾濱滿洲新報主筆 大阪朝日新聞哈爾濱通信員	永岡 繁造 (長崎) 中野 新吾 (大分) 長澤 泰三 (東京) 丸谷 常恩 (福井) 山田 實 (山形) 藤井 完次 (新潟) 布施 勝治 (新潟) 小柳 雪生 (熊本)
選科修了生 (六人) 岡村 敬三 (熊本) 樺山 猛一 (鹿兒島) 村上 常郎 (宮城)	明治四十年三月第八回卒業生 (二十一人) 關 三郎 (青森)	選科修了生 (二人) 小松 虎喜 (高知) 手塚 繁也 (山梨) 天野 林之助 (東京)	秋野 中一 (長野) 佐藤 有二 (兵庫)

南滿洲鐵道株式會社員 露都留學 外務省翻譯課囑託 兵務服務中 南滿洲鐵道株式會社員 外務省露都留學生 旭川師團語學教師 兵務服務中	池田 益宣 (福岡) 池田 定吉 (奈良) 池田 福松 (大阪) 穗積 永頼 (群馬) 戸村 仰一 (山口) 柏木 孤矢郎 (三重) 田中文一郎 (長野) 高松 榮之助 (福島) 高橋 守義 (新潟) 高橋 眞吉 (新潟)	第十八銀行浦鹽支店員 金澤師團語學教師 陸軍通譯(在韓國) ニコリスク島田商店員 南滿洲鐵道株式會社員 原生絲合名會社員 南滿洲鐵道株式會社員 南滿洲鐵道株式會社員	梨木 祐臣 (京都) 野村 徹 (東京) 山内 恭治 (福島) 矢澤 豁也 (東京) 松井 勳 (静岡) 古川 洪 (千葉) 北川 鹿藏 (三重) 溝部 壽六 (大分) 水谷 可什 (愛知)
選科修了生 (三人) 加藤 眞之助 (神奈川)	明治四十一年三月第九回卒業生 (十九人) 明治四十二年三月第十回卒業生 (十九人)	長尾 博 (兵庫)	本校卒業生及其就職ノ場所 露語學科

富士紡績會社員

石田 常 磨 (宮城)
 石田 二 郎 (埼玉)
 原 一 郎 (東京)
 長谷川 潔 (埼玉)
 鳥居 惟 三 (岐阜)
 戸田 利 三 郎 (青森)
 千葉市之助 (東京)
 沼野 鏡 太郎 (愛知)
 岡 木 光 三 (北海道)
 高 見 三 吉 (島根)

日露貿易會社員

園 山 一 郎 (熊本)
 齋 正 見 (群馬)
 深 野 剛 (福岡)
 小 松 靜 (宮城)
 寺 田 太 三 郎 (石川)
 佐 和 山 綱 六 (神奈川)
 三 輪 寬 次 (大阪)
 關 根 齊 一 (埼玉)
 關 野 米 三 郎 (神奈川)

選科修了生 (一人)

余 大 鷗 (清國)

伊語學科

明治三十五年七月第一回卒業生 (四人)

自家營業
 スタンド石油會社
 横濱支店員

永 井 義 磨 (神奈川)
 宇 野 鐵 二 (愛知)

外務通譯生(在メキシコ)
 東京外國語學校助教

小 林 武 磨 (東京)
 栗 田 三 吾 (東京)

明治三十七年七月第二回卒業生 (四人)

東京外國語學校英語學科生徒
 農商務省海外派遣實業練習生
 (在メキシコ)

石 田 善 太郎 (東京)
 濱 口 光 雄 (三重)

東京外國語學校助教
 在伊太利

吉 田 彌 邦 (徳島)
 有 島 壬 生 馬 (東京)

明治三十八年七月第三回卒業生 (七人)

三井銀行員

死亡
 農商務省海外派遣實業練習生
 (在雨米ウルグアイ)
 農商務省海外派遣實業練習生
 (在南米ブラジル國)

磐 瀨 三 郎 (東京)
 堀 武 三 (京都)
 豊 島 昌 (茨城)
 大 平 善 太郎 (三重)

宮城縣立圖書館司書
 横濱フレンジ商會員
 高田商會員

中 島 胤 男 (大分)
 長 岡 乙 彦 (東京)
 天 雄 (東京)

明治三十九年七月第四回卒業生 (三人)

清國牛家屯小寺機器油房
 大陸移民會社員(在北米)

向 原 喜 祝 (鹿児島)
 山 内 朝 吉 (福岡)

松 竝 颯 郎 (滋賀)

明治四十年三月第五回卒業生 (四人)

日伯商會員(在ブラジル)
 帝國鐵道院調査所員

田 中 忠 雄 (佐賀)
 楠 川 保 (山形)

三井物産會社員

天 笠 常 太郎 (三重)
 佐 藤 運 三 (秋田)

明治四十二年三月第六回卒業生 (六人)

横濱生絲検査所員

春 田 安 三 郎 (東京)
 太 田 清 彦 (東京)
 鹿 野 久 市 郎 (鳥取)

海軍軍令部編輯書記囑託
 駐日伊國大使館勤務

山 田 安 敏 (兵庫)
 深 澤 利 三 郎 (東京)
 木 戸 俊 夫 (東京)

西語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (三人)

本校卒業生及其就職ノ場所 伊語學科 西語學科

自家營業
東洋汽船會社員

伊東 信一 (愛知)
金澤 一郎 (兵庫)

第百銀行京都支店員

波多野 元治 (兵庫)

明治三十四年七月第二回卒業生 (五人)

熊本移民會社員(在メキシコ)
在亞爾然丁

桑原 眞義 (熊本)
松本 賢吉 (高知)
丸井 三次郎 (和歌山)

大藏屬兼東京外國語學校講師
森岡商會員(在ベル)

平松 輝太郎 (三重)
森 醇一 (佐賀)

明治三十五年七月第三回卒業生 (六人)

大陸殖民會社員
(在下カリフォルニア)
三井物産會社門司支店員

波佐 谷 慶發 (北海道)
岡田 庫次 (岐阜)
渡邊 三彦 (栃木)

農商務省海外派遣實業練習生
(知利サンチアゴ)
三井物産會社マニラ出張所員
三井物産會社香港支店員

四 枝 綱吉 (鹿児島)
竹 下 末吉 (島根)
南 登一 (兵庫)

明治三十七年第四回卒業生 (十人)

南洋貿易會社員(在ケラム)
大陸殖民會社員(在メキシコ)
橫濱稅關屬
自家營業

飯野 佐一 (愛知)
伊東 正雄 (大分)
秦 正雄 (三重)
福島 末光 (三重)
赤塚 啓一 (新潟)

自家營業
死亡
米國留學

木村 儀一郎 (新潟)
渡邊 周三郎 (栃木)
永原 勉 (東京)
日野 爲三郎 (廣島)
森 米八 (長崎)

東洋汽船會社員

長谷川 長和 (茨城)

外務通譯生(在マニラ)

春日 昭明 (東京)

明治三十八年七月第五回卒業生 (八人)

實業(在智利バルパライソ)
東洋汽船會社橫濱支店員
實業(在北米)

田中 勘四郎 (愛知)
辻 駒一郎 (佐賀)
中村 清 (徳島)

實業(在メキシコ)
死亡
橫濱野澤組店員

福田 卯吉 (徳島)
佐藤 豊司 (群馬)
坂上 良太郎 (和歌山)

選科修了生(一人)

大阪商船株式會社員

半田 虎雄 (東京)

明治三十九年七月第六回卒業生 (十三人)

臺灣淡水稅關屬
東洋移民會社員(在メキシコ)
橫濱正金銀行大阪支店員
熊本移民會社員(在メキシコ)

伊東 頼三 (三重)
原口 辰次郎 (佐賀)
菊部 新平 (茨城)
塚本 金治 (埼玉)
中島 東 (熊本)
草間 功 (茨城)
益子 三郎 (茨城)

森岡商會員(在ベル)
熊本移民會社員(在メキシコ)
橫濱正金銀行本店員

神田 虎雄 (山口)
小林 代次郎 (東京)
佐藤 淨兒 (千葉)
宮部 次郎 (東京)
澁川 義雄 (佐賀)
杉山 三五郎 (廣島)

明治四十年三月第七回卒業生 (十九人)

外務書記生(在ブラジル)
三井物産會社員(在香港)
やまと新聞社員

馬場 稱徳 (長野)
沼田 宗 (宮城)
岡 雷平 (長野)
岡田 鉦治郎 (愛知)
渡邊 孝 (福島)

印刷局員
三井物産會社マニラ出張所員

武田 辨藏 (埼玉)
村上 直吉 (鹿児島)
栗田 泰一 (静岡)
牧野 肅 (長野)
増田 耕作 (埼玉)

本校卒業生及其就職ノ場所 西語學科

橋谷商會員(在ベル)

小山 義 勉 (福岡)

兵役服務中
實業(在桑港)
在馬尼刺

島田 剛 (茨城)

北海道炭礦株式會社員

近 藤 愷 (愛媛)

弘中 強 介 (山口)

守 屋 節 (神奈川)

明治四十二年第九回卒業生 (十四人)

外務省留學生(在西班牙)

海老名 毅 介 (山口)

菅 波 新 一 (石川)

手塚 保三郎 (宮城)

首 藤 昇 (大分)

首 藤 昇 (大分)

橋本 登次郎 (東京)

沼田 豐 吉 (富山)

松本 儀十郎 (栃木)

清語學科

明治三十三年七月第一回卒業生 (九人)

東京外國語學校教授

岡本 正文 (愛媛)

清國天津火車站鈔關勤務
外務書記生(清國安東縣
領事館勤務)

佐藤 新太郎 (山形)

東京高等商業學校講師

河崎 武 (熊本)

宮内 元 (千葉)

滿永 鐵太 (熊本)

滿洲千金察明石町

上田 三 德 (東京)

寺本 寅 彦 (熊本)

島田 翰 (東京)

在清國大連

齋藤 勝 治 (佐賀)

齋藤 勝 治 (佐賀)

島田 翰 (東京)

明治三十四年七月第二回卒業生 (十一人)

清國鴨綠江採木公司員

岩原 大三郎 (東京)

橫濱正金銀行東京支店員

神谷 武 馬 (長崎)

自家營業

池田 良 榮 (高知)

日本毛織物會社天津支店員

船橋 甚 兵衛 (兵庫)

橫濱正金銀行奉天支店員

輿津 銀 平 (群馬)

橫濱正金銀行北京支店員

飯田 邦 彦 (佐賀)

死亡

糟谷 好 助 (埼玉)

南滿州鐵道株式會社員(鐵道在勤)

阿部 生 居造 (群馬)

明治三十五年七月第三回卒業生 (八人)

橫濱正金銀行牛莊支店員

石垣 光 義 (東京)

日清汽船會社漢口支店員

高島 長 治 (福井)

大阪林商會(自家營業)

林 要 五郎 (北海道)

清國遼陽巡警總局勤務

增井 茂 松 (三重)

大連滿州重要物

堀田 延 千代 (大阪)

橫濱正金銀行上海支店員

松村 孫 一 (埼玉)

明治三十六年七月第四回卒業生 (九人)

產輸出入組合員

大部 八 洲夫 (茨城)

松本 士 農 夫 (福井)

死亡

竹内 脩 吉 (三重)

清國廈門臺灣銀行支店員

菊川 逸 次郎 (熊本)

名古屋三重紡績會社員

梅村 美 誠 (神奈川)

清國廈門臺灣銀行支店員

倉澤 保 (東京)

日本郵船會社東京支店員

宇佐 美 右之 (東京)

日本建物會社天津支店員

八木 直 藏 (静岡)

陸軍士官學校助教授

寺田 由 衛 (愛媛)

諸岡 三 郎 (佐賀)

香川縣坂出商業學校教諭

佐藤 敏 治 (東京)

諸岡 三 郎 (佐賀)

日清汽船會社上海支店員

佐藤 敏 治 (東京)

諸岡 三 郎 (佐賀)

本校卒業生及其就職ノ場所 清語學科

死亡
 橫濱正金銀行安東縣出張所員
 品治 貞 (香川)
 高江 正 庸 (鹿兒島)
 竹內 午 郎 (東京)
 中村 準 輔 (山口)
 三井物産會社牛莊支店員
 橫濱正金銀行北京支店員
 日清製鐵會社員(在清國金州)
 南滿州鐵道株式會社員
 (長春驛在勤)
 山崎 淳 一 郎 (佐賀)
 山田 吾 郎 (靜岡)
 山元 敬 二 郎 (鹿兒島)
 三井物産會社營口支店員
 清國武昌府鐵政局員
 營口日本官煙專賣所
 清國安東縣第一銀行支店員
 死亡
 清國汕頭臺灣銀行支店員
 橫濱正金銀行營口支店員
 三井物産會社上海支店員
 小網 仁 三 郎 (群馬)
 秋山 昱 禧 (山梨)
 里見 庸 三 (栃木)
 滿岡 動 一 (佐賀)
 志岐 吉 彦 (沖繩)
 澁谷 樵 造 (高知)
 山瀬 肇 筆 (鳥取)
 樋口 勝 三 重 (三重)
 鈴木 準 繩 (福井)

明治三十八年七月第六回卒業生 (二十七人)

外務省翻譯官補
 長谷 理 教 (山形)
 遠山 猛 雄 (茨城)
 近田 美喜太郎 (愛知)
 三井物産會社員
 橫濱正金銀行鐵嶺出張所員
 兵務服務中
 陸軍經理學校講師、日本大學講師
 橫濱正金銀行上海支店員
 兵務服務中
 清國公主嶺合利洋行員
 三井洋行張家口支店員
 浦瀨 豐 次 郎 (長崎)
 野村 常 治 (宮城)
 柳谷 敏 也 (秋田)
 甲賀 三 郎 (靜岡)
 小松 光 治 (大阪)
 綾部 德 次 郎 (茨城)
 齋藤 文 雄 (新潟)
 齋藤 孝 太 郎 (宮崎)
 佐久間 敏 次 郎 (熊本)
 木川 加 一 (廣島)
 三宅 芳 雄 (熊本)
 兵務服務中
 大倉組天津支店員
 臺灣銀行臺灣臺北支店員
 清國公主嶺合利洋行員
 兵務服務中
 橫濱正金銀行遼陽出張所員

東京外國語學校助教
 大連日本官煙專賣所
 三井物産會社上海支店員
 宮越 健 太 郎 (新潟)
 東海 林 光 治 (神奈川)
 清水 豐 一 (長野)

選科修了生 (四人)

在清國
 橫濱正金銀行遼陽出張所員
 吉 増 宏 (神奈川)

明治三十九年七月第七回卒業生 (二十一人)

服部時計店員
 死亡
 在北京
 三井物産會社大阪支店員
 東京倉庫會社大阪支店員
 三菱合資會社若松支店員
 橫濱正金銀行上海支店員
 神戶川崎造船所員(北京留學中)
 上海三泰公司員
 大連光明洋行員
 大阪商船株式會社員
 非原 儀 平 (長野)
 生田 耕 (新潟)
 早川 正 雄 (長野)
 服部 邦 久 (長崎)
 西川 有 味 三 (熊本)
 西尾 廣 司 (奈良)
 本多 辰 三 郎 (東京)
 東條 儀 一 (東京)
 友田 久 雄 (兵庫)
 川井 光 太 郎 (千葉)
 加藤 節 (茨城)
 橫濱正金銀行牛莊支店員
 橫濱正金銀行營口支店員
 大連光明洋行支店員
 高田商會上海支店員
 京都西本願寺開教練習所教師
 大連光明洋行員
 臺灣銀行員(臺北)
 橫濱正金銀行營口支店員
 橫濱正金銀行安東縣支店員
 中城 正 亮 (高知)
 中村 梅 吉 (高知)
 山崎 重 次 (島根)
 益田 謙 吉 (東京)
 松岡 貞 良 (兵庫)
 松本 隆 助 (埼玉)
 小沼 信 造 (東京)
 由月 義 一 (兵庫)
 三瓶 守 一 (宮城)
 鈴木 巳 之 作 (栃木)
 兵務服務中
 橫濱正金銀行牛莊支店員
 須古 純 道 (佐賀)
 笹沼 政 次 (栃木)
 鈴木 重 彦 (鹿兒島)

選科修了生 (四人)

加藤 節 (茨城)

陸軍大學講師 穗 積 秀 範 (三重)
鴨綠江探水公司長白府分局員 種子田 實 (鹿兒島)

明治四十年三月第八回卒業生 (二十七人)

橫濱正金銀行天津支店員 伊原平之助 (島根)
泉田 寧 (福島)
三井物產會社寬城子支店員 猪俣恒次郎 (東京)
大阪半田綿行員 春田 眞一 (德島)
橫濱正金銀行漢口支店員 遠山 亮吉 (長野)
臺灣銀行打狗支店員 長 誠一 (福島)
橫濱正金銀行長春支店員 川村小三郎 (宮城)
三井物產會社哈爾濱支店員 上谷 庫平 (兵庫)
三井物產會社營口支店員 吉 雄 豐 (大分)
神戶川崎造船所員(北京留學中) 吉 田 壽 (兵庫)
橫濱正金銀行上海支店員 吉 持 俊道 (鳥取)
三井物產會社東京支店員 高 木 潔 (東京)
南滿洲鐵道株式會社撫順支店員 鮎 見 次世 (長野)
三井物產會社奉天支店員 永 原 正 雄 (静岡)

橫濱正金銀行奉天支店員 成 澤 直 亮 (長野)
三 橋 政 明 (北海道)

選科了修了生 (三人)

橫濱正金銀行神戶支店員 沼田幸之介 (鹿兒島)
大阪商船株式會社社員 藤澤悌二郎 (石川)
(安東丸事務長)

三井物產會社東京本店員 村井 舜 造 (山口)
帝國鐵道院勤務 上 杉 謹 一 (東京)
三菱合資會社香港支店員 山 田 清 一 (東京)
清國漢口內版印刷公司員 藤 谷 三 磨 (滋賀)
三井物產會社營口支店員 後 藤 愛 (東京)
三井物產會社天津支店員 近 藤 祿 之 甫 (山梨)
宇都宮師團講師 相 良 經 豐 (鹿兒島)
三井物產會社營口支店員 清 野 惣 吉 (新潟)
宮内省勤務 山 崎 大 八 (東京)
三菱合資會社社員(北京留學) 廣 本 光 治 (兵庫)
櫻組店員 平 田 恒 太 郎 (東京)
秀英會員 杉 浦 直 吉 (東京)
有南宇兵衛 (和歌山)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十七人)

臺灣製糖株式會社員 林 政 藏 (大阪)
南滿洲鐵道株式會社員(奉天在勤) 金 丸 六 也 (宮崎)
滋賀縣八幡商業學校教諭 津 村 精 太 郎 (福岡)
鹿兒島商業學校教諭 久 志 木 鐵 之 祐 (三重)
三井物產會社員(在哈爾濱) 藤 森 男 (長野)
南滿洲鐵道株式會社瓦房店員 小 林 嘉 貞 (山梨)
北京信昌洋行員 小 林 陽 之 介 (東京)
奉天日本官煙專賣所員 小 谷 綱 吉 (愛知)

明治四十二年三月第九回卒業生 (二十人)

淡路由良要審司令部講師 伊 藤 基 光 (愛知)
大連德泰號員 本 間 光 民 (新潟)
小 庭 孝 道 (鹿兒島)
小 川 逸 郎 (東京)
小 澤 善 兵 衛 (福岡)
河 喜 多 英 二 (福岡)
川 保 義 重 (群馬)
柏 崎 郁 三 郎 (栃木)
吉 村 芳 一 (山口)
高 橋 源 二 (福岡)

帝國鐵道院勤務 阿 部 善 吉 (宮城)
旭川師團清語講師 木 村 愛 香 (東京)
南滿洲鐵道株式會社員 水 谷 岩 三 郎 (新潟)
(營口在勤) 酒 井 清 兵 衛 (岐阜)
清國開原山口運送店員 芝 田 文 雄 (愛媛)
漢口日本領事館書記生 平 田 欣 附 (神奈川)
南滿洲鐵道株式會社員(大連勤務) 守 屋 禮 三 (岡山)
杉 秀 夫 (福岡)

富山商業學校教諭 副 島 國 雄 (長崎)
長 畑 桂 藏 (福島)
黑 川 直 枝 (島根)
倉 田 誠 一 郎 (福島)
山 口 尚 平 (愛知)
藤 澤 正 雄 (石川)
寺 田 業 也 (新潟)
荒 井 永 作 (神奈川)
佐 藤 文 兒 (宮城)
白 川 功 (長野)

本校卒業生及其就職ノ場所 清語學科

韓語學科

明治三十三年七月第一回卒業生(三人)

東京外國語學校教授

本田 存(東京)
重嶺 一祐(山口)

山口 有信(愛知)

明治三十四年七月第二回卒業生(四人)

實業(在ハツイ)
實業(在韓國)

西田 禎一(大分)
加藤勝之助(愛知)

三井物産會社京城支店員

天野雄之助(滋賀)
江崎 精一(愛知)

明治三十五年七月第三回卒業生(九人)

統監府鐵道監理局勤務(京城)
死亡
實業(在間島)
死亡

伊藤 四郎(東京)
小野 雄志(岡山)
櫻村 武雄(茨城)
多田 謙三(長野)
國方 章二(香川)

外務書記生(本省詰)
東京外國語學校講師
統監府鐵道監理局勤務(在京城)
韓國元山農工銀行
敦賀市役所勤務

山本恒太郎(東京)
福原 資孝(栃木)
秋吉 英三(東京)
木下 蕃(福井)

選科修了生(一人)

中井洋紙商店員(在韓國)

上田安次郎(京都)

明治三十六年七月第四回卒業生(二人)

韓國內部勤務

藤戸 計太(長崎)

明治三十七年七月第五回卒業生(三人)

京城理事廳勤務
外務通譯生(在ホノル)

本多 寛三(福井)
河野 小七郎(佐賀)

統監府鐵道監理局勤務(在新義州)天 谷 操(東京)

明治三十八年七月第六回卒業生(十人)

韓國法部主事(在京城)
清津理事支廳勤務
海外貿易從事
實業
元山理事廳勤務

堀江 三郎(佐賀)
渡邊 倉藏(福島)
天海 良之(埼玉)
村上 安造(東京)
島田 慶三郎(東京)

韓國內部治道局員(在京城)
統監府勸業模範場員(在水源)
統監府勤務(在間島)
第百銀行員
會豐財務署勤務

曲 圭馬(福岡)
武間 卓一(兵庫)
近藤 信一(千葉)
岸本 德三郎(兵庫)
末永 健一(東京)

選科修了生(二人)

志岐組京城支店員

中島 直吉(静岡)

明治三十九年七月第七回卒業生(十二人)

京畿觀察道主事(水原)
仁川稅關勤務
烟商店主(在京城)
統監府通信技手(在星州郵便局)
忠清南道觀察道主事
統監府鐵道監理局兼二浦勤務

岩 倉 一(宮崎)
井手 貞吉(福岡)
堀 佐太郎(大阪)
遠山 佑吉(東京)
岡崎 進(高知)
大久保 清(静岡)

第一銀行支店員(在京城)
統監府觀測所仁川氣象臺勤務
日韓共同倉庫株式會社社員
(在四禁停車場)
韓國農商工事主事
三菱合資會社社員
京城理事廳勤務

和田 喜一郎(京都)
玉木 良(山梨)
松尾 辰一(佐賀)
相川 靈瑞(石川)
森山 靜造(東京)
須永 茂平(栃木)

本校卒業生及其就職ノ場所 韓語學科

大韓醫院勤務

選科修了生 (一人)

石橋 義雄 (神奈川)

明治四十年三月第八回卒業生 (十六人)

价川財務署勤務
三井物産會員(在仁川)
靈岩財務署勤務
堤川財務署勤務
春川觀察道勤務
韓國度支部勤務
統監府勤務
蕭川財務署勤務

市川安之進 (三重)
大和田 矯 (宮城)
加藤 顯一 (廣島)
龜山 猛治 (北海道)
鴨川 清十郎 (長崎)
高岡 宣次 (東京)
高木 國則 (茨城)
武原 周之助 (神奈川)

韓國度支部勤務
長崎高等商業學校講師
長連財務署勤務
義城財務署勤務
全州財務監督局勤務
内部大臣官房詰(在京城)
三嘉財務署勤務
三嘉財務支部司稅局檢
政課勤務(在開城)

齋藤 助昇 (山梨)
佐々木 龍真 (島根)
松谷 讓 (佐賀)
萬田 新太郎 (東京)
青山 武男 (群馬)
赤司 勤一 (佐賀)
岸川 直吉 (佐賀)
杉浦 直齊 (靜岡)

明治四十一年三月第九回卒業生 (十四人)

法官養成所勤務(京城)
慶尙北道觀察道主事
平壤財務署勤務
全州財務署
統監府勤務
大邱財務署勤務
東亞煙草會社

岡田 勝利 (愛知)
小田 切萬吉 (廣島)
横山 英志 (鹿兒島)
田川 長次郎 (長崎)
瀧山 靖次郎 (長崎)
栗田 作四郎 (靜岡)
功刀 孝發 (山梨)

統監府勤務
兵役服務中
實業
慶應義塾大學部
實業(在仁川)
統監府勤務

山田 寛治 (新潟)
古内 義 (茨城)
北村 薩雄 (東京)
木村 善淳 (三重)
三好 六藏 (香川)
芝崎 路可 (東京)
關原 二男 (山形)

明治四十二年三月第十回卒業生 (十人)

度支部財務部勤務
東亞煙草會社員

伊地知 直七 (鹿兒島)
猪俣 富士雄 (鹿兒島)
西村 洪治 (大阪)
岡田 榮 (廣島)
松脇 正昇 (東京)

松美 巳之吉 (石川)
藤井 亥之助 (大阪)
瀧口 亮造 (福岡)
淺香 武夫 (福岡)
野口 厚三 (秋田)

選科修了生 (二人)

野澤 寛一 (新潟)

本校別科(後專修科)と改稱す 修業生 (ころは順)

英語學科

明治三十二年七月第一回別科修業生 (十二人)

高橋 行次 (滋賀)
園田 辰三郎 (東京)
浦壁 長富 (東京)
田中 虎雄 (埼玉)

野一色 千七郎 (靜岡)
大西 成太 (香川)
岡田 明達 (愛知)

黒川 善一 (東京)
黒田 茂次郎 (長崎)
松下 專吉 (靜岡)
中川 源三郎 (京都)

小山市 太郎 (東京)
小山 英吾 (東京)
三宅 貞密 (東京)
的場 悌 (和歌山)

明治三十三年七月第二回別科修業生 (六人)

本校別科修業生 英語學科

大高準太郎 (東京) 島越盛 (佐賀)

明治三十四年七月第三回別科修業生 (五人)

錦織房之助 (宮城) 久保清太郎 (徳島) 松井英一 (岐阜) 枝正八 (茨城)

香川敦太郎 (愛媛)

明治三十五年七月第四回別科修業生 (十六人)

伊東獻密 (福島) 興謝野修 (京都) 野本彌生八 (和歌山) 秋山運四郎 (宮城)

西村憲治 (滋賀) 多羅間政輔 (山口) 山中寛次郎 (滋賀) 君舜一 (東京)

星野鏡造 (東京) 野田爲太郎 (鳥取) 山中鐵之助 (東京) 宮定平 (廣島)

加賀川市松 (兵庫) 内藤明延 (東京) 古谷鐵之助 (東京) 鈴木孫太郎 (静岡)

明治三十六年七月第五回別科修業生 (十九人)

石川功 (廣島) 内山秋太郎 (静岡) 山中榮藏 (山口) 秋月源太郎 (静岡)

片山喜十郎 (京都) 小川松輔 (宮城) 松井億太郎 (茨城) 峰屋三千三 (東京)

金子助次郎 (長崎) 大村足彦 (東京) 小出鑑次郎 (東京) 三浦秀二 (長崎)

古福典四郎 (長崎) 倉橋軍治 (宮城) 小泉有造 (石川) 森美文 (東京)

谷氷輔 (福島) 山形龜次郎 (東京) 後藤敬三 (東京)

明治三十七年七月第六回別科修業生 (十二人)

坂垣昌助 (静岡) 堀重幸 (東京) 加藤雄利 (東京) 眞下利三郎 (群馬)

原庄藏 (静岡) 小笠原静也 (東京) 高橋静雄 (東京) 宮越健太郎 (新潟)

林善一 (東京) 太田喜次郎 (京都) 村形英次郎 (東京) 西戸友太郎 (岩手)

明治三十八年七月第七回專修科 (別科) 修業生 (十九人)

犬伏節輔 (徳島) 岡本稻輔 (神奈川) 多田作治郎 (福岡) 中野一三 (香川)

今井静治 (新潟) 小野千代太 (廣島) 鶴見高彦 (千葉) 内田鎌司 (神奈川)

半田虎雄 (東京) 和田政治 (新潟) 永井彌彦 (茨城) 安福勝美 (岐阜)

西原脩三 (東京) 河村竹三郎 (岐阜) 長岡喜一 (山口) 是永均 (大分)

荻野山次郎 (埼玉) 糟谷武城 (鳥取) 中村三男吉 (東京)

明治三十九年七月第八回專修科修業生 (二十四人)

石塚久雄 (新潟) 服部連三 (福島) 荻島四三 (東京) 山内朝吉 (福岡)

伊東要之輔 (愛知) 服部連三 (大分) 尾島林之助 (神奈川) 安藤兎毛 (長崎)

伊藤昭吉 (香川) 西村彌 (島根) 渡邊豊一 (廣島) 齋藤實 (東京)

伊藤充男 (岐阜) 富永正清 (長崎) 川口眞清 (新潟) 芝藤茂 (福岡)

伊矢野豊三郎 (栃木) 千葉政茂 (岩手) 植川真稔 (東京) 森田茂 (兵庫)

服部鉄三郎 (神奈川) 小澤政行 (東京) 釘宮極 (大分) 住野良三 (奈良)

明治四十年三月第九回專修科修業生 (二十二)

岡田鈞 (東京) 露口浩治 (大阪) 藤卷清 (東京) 木村説二 (兵庫)

小笠原安太郎 (和歌山) 中山彌市 (栃木) 隻川喜一 (東京) 水野菘三 (東京)

大津茂 (東京) 氏江富藏 (山形) 舟越升太 (大分) 巖岸久治 (宮城)

川原井左司馬 (茨城) 藏口淺次郎 (富山) 青木秀太郎 (滋賀) 城親政 (栃木)

川崎廉吾 (佐賀) 久米豊作 (埼玉) 淺石晴香 (青森)

芳野春吉 (愛媛) 丸山殿淨 (長野) 征森草一 (青森)

本校專修科修業生 英語學科

明治四十一年三月第十回專修科修業生(十四人)

原忠道	(東京)	河村正	(東京)	小林嘉貞	(山梨)	三原裕	(大分)
西本龍藏	(廣島)	玉田耕二	(兵庫)	寺田祐男	(長野)	鹽川八男	(香川)
星野勝藏	(東京)	高倉俊政	(富山)	天草三郎	(東京)		
島羽順二	(東京)	山田寛治	(新潟)	木村善淳	(三重)		

明治四十二年三月第十一回專修科修業生(二十二)

市原文治	(徳島)	金田爾郎	(鳥取)	中村盛司	(千葉)	坂本鼎三	(静岡)
石井巳代吉	(東京)	田内定治	(愛知)	中島濱三郎	(栃木)	崎田清一	(東京)
石田善大郎	(東京)	津村俊雄	(和歌山)	村越清太郎	(東京)	廣川喜一	(東京)
太田清三郎	(岡山)	津山辯一	(大阪)	前田元四郎	(青森)	菅原菊治	(宮城)
渡邊裕	(東京)	辻芳哉	(福島)	小林信一	(東京)		
金原利雄	(千葉)	根本敬三	(東京)	小西好二郎	(奈良)		

佛語學科

明治三十二年七月第一回別科修業生(九人)

服部邦光	(長崎)	歸山信順	(石川)	山内健吉	(岐阜)	宮城大太郎	(千葉)
新原俊秀	(宮崎)	大野若三郎	(神奈川)	松原常次郎	(東京)	鈴木彌次平	(静岡)
金光泰	(大分)						

明治三十三年七月第二回別科修業生(三人)

井出哲 (東京) 神谷龍彦 (愛知) 吉田六之助 (千葉)

明治三十四年七月第三回別科修業生(三人)

徳岡梅吉 (鳥取) 上條長藏 (長野) 三戸頼猷 (山口)

明治三十五年七月第四回別科修業生(十四人)

高岩助次郎	(福岡)	山下安太郎	(埼玉)	淺井義調	(愛知)	鹿野岩次郎	(石川)
田村保三	(千葉)	寺島成信	(山形)	齋藤久孝	(兵庫)	關次郎	(長野)
白井傳三郎	(長野)	阿部景毅	(宮城)	佐藤純太郎	(石川)		
岡田武松	(千葉)	有吉秀太	(山口)	三谷氏郎	(香川)		

明治三十六年七月第五回別科修業生(八人)

秦正雄	(三重)	吉岡七郎	(東京)	黒島定靜	(高知)	前原準一郎	(群馬)
本間重策	(新潟)	野田爲太郎	(鳥取)	松原制六	(山口)	齋藤豊作	(東京)

明治三十七年七月第六回別科修業生(十人)

石津利作	(大阪)	中村平吉	(岩手)	宮崎團治	(長野)	菅谷龍平	(東京)
生野團六	(大分)	寺澤健二	(愛知)	平澤均治	(青森)		
吉原開	(東京)	木村衡	(新潟)	日暮忠	(東京)		

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修業生(六人)

今道文一郎	(長崎)	園部潜	(三重)	崎山刀太郎	(東京)	宮林捨藏	(新潟)
池上泰次郎	(長野)	後藤清造	(岩手)				

本校專修科修業生 佛語學科

明治三十九年七月第八回專修科修業生 (八人)

井上 通夫 (東京) 大關 久五郎 (青森) 梶田 謙太郎 (東京) 福尾 昇 (島根)

明治四十年三月第九回專修科修業生 (五人)

小野 秀太郎 (茨城) 太田 喜二郎 (京都) 田島 道治 (愛知) 鈴木 行三 (群馬)

明治四十一年三月第十回專修科修業生 (六人)

飯守 勘一 (佐賀) 渡邊 劍之丞 (埼玉) 梶川 義隆 (東京) 中島 濱三郎 (栃木)

明治四十二年第十一回專修科修業生 (四人)

市川 節太郎 (石川) 大島 隆吉 (岩手) 淺野 良 (栃木) 平田 稔 (和歌山)

獨語學科

明治三十二年七月第一回別科修業生 (六人)

池田 福松 (大阪) 内崎 豐一郎 (宮城) 山口 篤郎 (東京) 秋間 愛一 (群馬)

明治三十三年七月第二回別科修業生 (九人)

奧山 萬次郎 (靜岡) 中山 隆吉 (滋賀) 山田 義敬 (東京) 宮田 義敬 (東京)

岩崎 半次 (茨城) 堀 常次郎 (岐阜) 歌原 兼良 (愛媛) 杉山 正治 (東京)

磯野 清助 (東京) 德水 昌美 (東京) 山田 又市 (新潟)

明治三十四年七月第三回別科修業生 (八人)

川島 庄一郎 (和歌山) 片山 外典作 (東京) 乙竹 岩造 (三重) 酒井 政吉 (石川)

明治三十五年七月第四回別科修業生 (十五人)

伊藤 弘一 (千葉) 中柴 繁三郎 (東京) 久保田 敬一 (兵庫) 樋口 兼治 (東京)

高橋 祐三 (三重) 中條 道次郎 (千葉) 工藤 武城 (熊本) 平木 安之助 (福岡)

明治三十六年七月第五回別科修業生 (十三人)

石崎 久吉 (愛媛) 六笠 弘躬 (東京) 眞弓 眞 (愛知) 毛利 正義 (東京)

伊東 榮三郎 (東京) 大久保 直記 (長野) 松崎 故一 (島根)

明治三十七年七月第六回別科修業生 (十五人)

吉田 喜三郎 (茨城) 黒住 靜太 (岡山) 平島 直太郎 (德島) 大關 久五郎 (青森)

本校專修科修業生 獨語學科

井浦義久 (福岡)	伊藤金八 (三重)	稻葉字作 (新潟)	永田源一 (茨城)	高橋勝 (島根)	高木清德 (島根)	吉田令兒 (兵庫)	岡田芳之介 (城城)	小田部家資 (秋田)	岡田藤十郎 (愛知)	八田敏夫 (福井)	石田龜吉 (秋田)	伊藤一郎 (東京)	野々部本祐 (東京)	田畑梅次郎 (岡山)	金田捨吉 (宮崎)	
本田稔介 (山口)	長谷川市松 (岡山)	堀田要三郎 (三重)	江川惣次 (香川)	近藤茂吉 (京都)	近藤耕藏 (神奈川)	梅山讓 (群馬)	村形東之助 (千葉)	野島和吉 (東京)	中田榮太郎 (東京)	田中親介 (三重)	河崎次雄 (長崎)	川村丈吉 (千葉)	坂田弘 (千葉)	藤本幸太郎 (三重)	山根靜智 (島根)	
依田豊 (長野)	奥村文平 (岐阜)	尾崎錦太郎 (岡山)	平山金作 (愛知)	清水直 (神奈川)	湯川直 (神奈川)	黄川田茂藏 (岩手)	坂本寛次郎 (静岡)	小鷹連平 (埼玉)	小柳新吉 (新潟)	河野義璋 (東京)	矢野習吉 (兵庫)	葛岡陽吉 (宮城)	森六藏 (茨城)	佐藤純之助 (埼玉)	澤山勇三郎 (山口)	
海沼博 (長野)	梅澤修五郎 (東京)	梅澤修五郎 (東京)				鈴木毅 (静岡)	持田二郎 (東京)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)	鈴木衛平 (静岡)
明治三十九年七月第八回専修科修業生 (十七人)																
明治四十年三月第九回専修科修業生 (二十二)																

倉石眞三 (長野)	矢田鶴之助 (島根)	山木鎮三郎 (東京)	井上達子 (廣島)	波邊次郎 (東京)	神藏良一 (新潟)	飯海慎二 (愛知)	林祐次郎 (愛知)	加藤輝光 (埼玉)	田中興五郎 (大阪)	岡部重一郎 (東京)
間中綱彦 (東京)	藤井輝雄 (東京)	高野親雄 (山形)	椿繁藏 (千葉)	中曾根類造 (群馬)	成松靜雄 (熊本)	高橋鈴彦 (愛知)	角田孝次郎 (新潟)	内記茂市 (滋賀)	澤井才治 (新潟)	松尾長之助 (佐賀)
吉賀平太 (佐賀)	新井徳次郎 (埼玉)	柳澤秀吉 (富山)	前田弘 (高知)	小池政藏 (長野)	齋藤糸平 (群馬)	八田清信 (京都)	安武元十郎 (福岡)	胡以魯 (清國)		佐伯迅二郎 (和歌山)
宮部勝之介 (群馬)		水谷恭治 (岐阜)				近藤只藏 (東京)				
明治四十一年三月第十回専修科修業生 (十三人)										
明治四十二年三月第十一回専修科修業生 (十人)										
露語學科										
明治三十二年七月第一回別科修業生 (二人)										
明治三十三年七月第二回別科修業生 (三人)										

本校専修科修業生 露語學科

長野 豊彦 (大分) 酒井 恒矢 (山形) 明治三十四年七月第三回別科修業生 (二人)

稻澤 珍三郎 (宮崎) 久保田 兵一 (北海道) 軍地 五郎 (茨城) 明治三十五年七月第四回別科修業生 (五人)

大倉 勤夫 (山形) 明治三十六年七月第五回別科修業生 (八人)

市川 謙三 (東京) 奥野 幸吉 (兵庫) 村上 常郎 (宮城) 于 冲 漢 (清國) 島居 博 (福島) 竹内 彌惣次 (三重) 村井 英一 郎 (岐阜) 松平 庄九 郎 (東京)

明治三十七年七月第六回別科修業生 (六人)

原田 三平 (山口) 村井 丑松 (新潟) 藤井 十四三 (山口) 三宅 福馬 (高知) 岡田 貞作 (新潟) 中川 正雄 (兵庫)

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修業生 (四人)

大友 義勝 (東京) 中瀬 覺次郎 (富山) 山德 貫之輔 (東京) 間瀬 越 彌 (北海道) 根津 鹿之輔 (千葉) 成瀬 正義 (香川)

明治三十九年七月第八回專修科修業生 (二人)

細野 正文 (新潟)

石橋 則隆 (福岡) 高崎 忠一 (石川) 上野 信孝 (東京) 明治四十年三月第九回專修科修業生 (七人)

金森 輝夫 (岐阜) 竹内 嘉兵衛 (東京) 駒田 彌四郎 (三重) 疋田 盛一 (東京)

明治四十一年三月第十回專修科修業生 (六人)

劉 用 靜 (清國) 山 科 久 (栃木) 松井 英一 (宮城) 鍵和 田 專太郎 (神奈川) 松信 春之助 (茨城) 宮崎 友次郎 (東京)

明治四十二年三月第十一回專修科修業生 (三人)

山本 眞太郎 (静岡) 荒木 頼吉 (東京) 皆川 太郎 (山口)

伊語學科

平松 幾比古 (和歌山) 明治三十四年七月第一回別科修業生 (二人)

森田 鐵三郎 (新潟) 明治三十五年七月第二回別科修業生 (二人)

菅野 眞 (宮城) 明治三十六年七月第三回別科修業生 (二人)

本校專修科修業生 露語學科 伊語學科

西語學科

津田 弘季 (岡山) 渡邊 清 (東京) 明治三十二年七月第一回別科修業生 (二人)

堀口 福彦 (岡山) 明治三十三年七月第二回別科修業生 (一人)

鈴木 三郎 (千葉) 明治三十四年七月第三回別科修業生 (一人)

伊藤 恒太郎 (山口) 眞田 五十吉 (東京) 齊藤 惣吉 (山口) 進藤 信雄 (群馬) 大塚 修 (愛媛) 齋藤 惣吉 (山口) 明治三十八年七月第四回專修科(別科)修業生 (五人)

橋本 靜 (滋賀) 加藤 順之介 (茨城) 片山 謙 (徳島) 宮崎 信造 (福岡) 大野 基尙 (大分) 明治四十年三月第五回專修科修業生 (五人)

緒田 原重雄 (福岡) 加毛 健 (三重) 吾妻 捨吉 (宮城) 明治四十一年三月第六回專修科修業生 (三人)

明治四十二年三月第七回專修科修業生 (二人)

國久 作之助 (福井) 杉本 清 (東京)

清語學科

明治三十二年七月第一回別科修業生 (六人)

泉水 信太郎 (千葉) 鎌田 彌助 (鹿兒島) 坂野 竹之助 (茨城) 日高 賢吉郎 (長崎)

加納 政太郎 (東京) 小川 運平 (埼玉)

明治三十三年七月第二回別科修業生 (七人)

龜山 玄明 (岐阜) 田中 慶太郎 (京都) 大久保 家道 (東京) 佐藤 長次郎 (埼玉)

高岩 勘次郎 (福岡) 中島 比多吉 (埼玉) 福崎 三太郎 (鹿兒島)

明治三十四年七月第三回別科修業生 (十七人)

稻澤 珍三郎 (宮崎) 村上 久吉 (東京) 小澤 銀十郎 (長野) 白藤 芳夫 (東京)

唐澤 祐慶 (東京) 大橋 末彦 (東京) 菊池 三九郎 (東京) 關 菊麿 (京都)

高比 瓦勝二 (長崎) 岡田 瓢 (長野) 菊川 龜次郎 (熊本)

成田 文太夫 (宮城) 太田 繁 (東京) 岸 峯治郎 (鳥取)

中田 金次郎 (東京) 大久保 宣家 (東京) 皆川 秀孝 (茨城)

明治三十五年七月第四回別科修業生 (十一人)

田中 政吉 (兵庫) 宅野 潔 (山口) 村田 鐵三郎 (愛媛) 黒澤 兼次郎 (富山)

本校專修科修業生 西語學科 清語學科

桑原 壽一 (山口) 兒玉 純 (鹿兒島) 赤澤 宇之助 (鹿兒島) 菊地 崇 (茨城)
松井 英一 (岐阜) 遠藤 三藏 (兵庫) 秋吉 英三 (東京)

明治三十六年七月第五回別科修業生 (十三人)

奧田 猛 (兵庫) 仲西 次郎 (福岡) 淺井 周治 (愛媛) 須賀 幸太郎 (群馬)
吉田 興三 (滋賀) 山田 茂三郎 (富山) 北村 一郎太 (長崎)
芳野 五郎 (東京) 古谷 鐵之助 (東京) 宮越 健太郎 (新潟)
中川 四郎 (愛媛) 小池 英次 (福島) 菅沼 佐喜男 (三重)

明治三十七年七月第六回別科修業生 (十二人)

井上 翠 (兵庫) 金田 雄次 (静岡) 柴 順平 (島根) 清水 知 (愛知)
入澤 豊 (東京) 只野 重次郎 (宮城) 今 逸郎 (青森) 鈴木 仁四郎 (栃木)
太田 貞吉 (東京) 長澤 貞 (栃木) 椎野 榮一 (新潟) 角田 松次郎 (群馬)

明治三十八年七月第七回專修科(別科)修業生 (十九人)

岩村 成中 (千葉) 和田 貫一郎 (東京) 山崎 成太郎 (奈良) 新井 信次 (東京)
石原 新七 (埼玉) 田淵 清一 (徳島) 松本 義圓 (廣島) 天野 准一 (愛知)
西田 周平 (富山) 宇井 英 (東京) 卷 雄四郎 (東京) 安藤 堅次 (岐阜)
岡山 周藏 (兵庫) 草場 力 (愛知) 福田 勇 (岐阜) 森山 徳助 (島根)
荻島 四三 (東京) 山野 井虎市 (東京) 青木 金太郎 (奈良)

明治三十九年七月第八回專修科修業生 (十七人)

遠山 吉之介 (愛知) 加藤 庸三 (群馬) 小林 源造 (東京) 木下 茂雄 (東京)
富田 康平 (静岡) 津田 榮 (大阪) 遠藤 重男 (福岡) 寺境 彌 (東京)
德永 政一 (山口) 久保 清吉 (廣島) 荒川 徳一 (東京)
小澤 銀次郎 (東京) 福田 清一 (群馬) 齋藤 伊右衛門 (東京)
川橋 正治郎 (京都) 小林 代次郎 (東京) 佐々木 三利 (福井)

明治四十年三月第九回專修科修業生 (二十四人)

伊藤 東一郎 (岩手) 大和多 登實吉 (宮崎) 山本 寅雄 (東京) 湯山 半兵衛 (神奈川)
池田 良太郎 (山形) 大野 郷夫 (東京) 福田 榮治 (埼玉) 行岡 宇多之助 (東京)
濱野 萬吉 (東京) 龜山 猛治 (北海道) 小山 義龜 (福岡) 庄田 規矩郎 (東京)
長谷川 豊男 (埼玉) 上遠野 武 (宮城) 近藤 菊雄 (富山) 下平 晋 (長野)
西島 徳太郎 (東京) 浦田 二郎 (東京) 朝比奈 泰吉 (兵庫) 守田 藤之助 (東京)
小川 吉之助 (東京) 黒田 茂八 (富山) 木村 重藏 (福島) 關根 富貴男 (東京)

明治四十一年三月第十回專修科修業生 (十六人)

今藏 熊太郎 (東京) 山田 謙次郎 (新潟) 駿島 時應 (鹿兒島) 三木 宗太郎 (徳島)
植田 友三郎 (栃木) 松脇 正昇 (東京) 酒菜 道信 (東京) 樋口 鐵六 (東京)
栗山 勝正 (山口) 後藤 勢一 (香川) 三枝 一太郎 (東京) 森 徳次郎 (静岡)
手塚 武義 (山梨) 水谷 一之亮 (三重) 杉本 吉五郎 (東京)

明治四十二年三月第十一回專修科修業生 (十三人)

新島 謙吉 (東京) 高橋 貞之助 (東京) 中川 好助 (静岡) 中路 留吉 (福岡)
神谷 豊左衛門 (愛知) 長崎 元一 (東京) 中山 忠次 (和歌山) 村田 春江 (千葉)

本校專修科修業生 清語學科 韓語學科

菅 眞人 (愛知) 山根 藤七 (島根) 齋藤 清俊 (秋田) 菱伊新三郎 (宮城)
山田久太郎 (富山)

韓語學科

明治三十四年七月第一回別科修業生 (二人)

井上安次郎 (京都)

明治三十九年七月第二回專修科(別科)修業生 (五人)

岡本賢之助 (東京) 村木 流 (三重) 比佐祐次郎 (秋田) 杉原惣太郎 (福島)
七邊格太郎 (岡山)

明治四十年三月第三回專修科修業生 (二人)

新納 賢司 (東京)

明治四十一年三月第四回專修科修業生 (二人)

西村獅子雄 (岐阜) 宮崎 道雄 (三重)

明治四十二年三月第五回專修科修業生 (二人)

大谷 任功 (福島) 三宅 知之 (東京)

明治四十年三月速成科修業生

露語學科 (十九人)

渡邊源四郎 (石川) 竹室 卯造 (兵庫) 福井 敬藏 (東京) 皆川 太郎 (山口)
程田 藤吉 (東京) 宗 文江 (東京) 高 範 中 (清國) 三浦安兵衛 (愛知)
戸川 末三 (東京) 根岸 伊七 (群馬) 厚美 清太郎 (德島) 鹽田彌惣八 (滋賀)
奥山 光茂 (鹿兒島) 山口 甲子男 (群馬) 秋草 愛一 (群馬) 茂木 德音 (長野)
押見寅之助 (東京) 保田宗治郎 (神奈川) 湯淺 誠作 (群馬)

清語學科 (二十九人)

林 善一 (東京) 竹中 信以 (東京) 松浦 捨吉 (和歌山) 岩本 正木 (長野)
西山 章二 (福岡) 塚原 守重 (山梨) 藤岡 藤三 (德島) 瀧谷 兵八 (岐阜)
細川 久 (岩手) 長竹 元吉 (千葉) 舟津 勝三 (東京) 清水 清次 (山形)
土井 芳輔 (山口) 中村 春之助 (神奈川) 江口 是三郎 (佐賀) 鈴木 榮之丞 (長野)
川谷宮太郎 (高知) 中村 惠延 (埼玉) 新井 慶太郎 (埼玉) 鈴木 榮之丞 (長野)
立花 慶應 (福岡) 矢野 繁之丞 (岩手) 秋元 雄治 (群馬) 鈴木 榮之丞 (長野)
高山 好 (新潟) 松岡 龍吉 (岐阜) 酒井 恒記 (愛媛) 鈴木 榮之丞 (長野)
辰川 實 (愛媛) 松田 知禮 (愛媛) 岸田 國太郎 (京都)

韓語學科 (十四人)

池田 傳次 (秋田) 中澤 鐵太郎 (東京) 松岡 末廣 (愛媛) 島谷 直方 (富山)
石川 竹三郎 (埼玉) 野澤 寛一 (新潟) 足助 嘉一郎 (長野) 墨 泰 兒 (愛知)
興津 健夫 (東京) 黒羽 資明 (茨城) 北山 清 (茨城)
田中 德太郎 (青森) 山中 忠太 (三重) 宮崎 侃 (東京)

本校速成科修業生 露語學科 清語學科 韓語學科 百十九

明治四十二年三月第一回東洋語速成科修業生

馬來語學科 (十六人)

飯塚 重一 (埼玉)	中村 康太郎 (福井)	松信 春之助 (茨城)
林 虎太 (香川)	宇野 耕雲 (東京)	松井 秀三 (鳥取)
小野 真吉 (大分)	野口 邨彦 (北海道)	近藤 正二 (東京)
荻島 真三 (埼玉)	久保田 善一 (茨城)	寺尾 熊次 (北海道)

ヒンドスタニー語學科 (十二人)

稻見 憲吉 (栃木)	金村 貞太郎 (東京)	土屋 政次郎 (岡山)	山室 廉吉 (富崎)
小栗 明 (岐阜)	鷹屋 祐儀 (富山)	鶴岡 仙之助 (岐阜)	赤羽 字重 (長野)
大澤 友吉 (千葉)	武關 久壽 (栃木)	上田 孝三 (三重)	阿滿 得壽 (京都)

タミル語學科 (四人)

田中 俊三 (和歌山)	柳田 光之助 (東京)	秋元 善藏 (青森)	三宅 正 (愛媛)
-------------	-------------	------------	-----------

蒙古語學科 (六人)

石山 福治 (新潟)	吉田 順三 (東京)	藤 森 勇 (長野)	三 俣 二郎 (群馬)
西田 與左衛門 (東京)	中島 友次郎 (群馬)		

明治四十二年三月卒業式ニ於ケル演說祝辭等

村上校長報告

本日第十回卒業證書授與式ヲ舉行スルニ方リ文部大臣閣下代理、埃拱國大使閣下、瑞典國公使閣下其他來賓諸君ノ臨席ヲ辱ウセルハ本校ノ光榮トスル所ナリ

本校本學年末現在ノ教員ハ教授十六名、備外國人十五名、講師十九名、助教八名ニシテ生徒ハ英、佛、獨、露、伊、西、清、韓ノ八外國語學科各年通計本科四百三十八名、選科十一名、專修科二百七名、及東洋語速成科五十三名、總計七百九名ナリ、而シテ今回ノ卒業業者ハ本科百三十二名、選科五名、專修科五十六名、東洋語速成科三十八名ナリ

從來ノ卒業生職業別ハ教育事業ニ従事スル者百二十七名、官廳ニ勤務スル者百八十三名、實業ニ従事スル者二百八十三名、外國ニ在ル者百三十名、其他ノ者四十四名、死亡者三十一名ナリ

小松原文部大臣祝辭(福原專門學務局長代讀)

本日東京外國語學校第十回卒業式ヲ舉クルニ臨ミ一言諸子ニ告ケテソノ成業ヲ祝スルハ本大臣ノ欣トスル所ナリ

惟フニ宇内各國トノ交際日ニ益々繁ク萬般ノ事漸ク世界的ノ經營ヲ必要トスル
 今日ニ當リ苟モ世界ノ大勢ニ應シテ國利民福ヲ圖ラントスルニハ外國語ノ智識
 ヲ要スルコト特ニ切ナルモノアリ此時ニ當リテ諸子ハ多年研磨セル語學ノ智識
 ヲ懷イテ新ニ活社會ニ立タントス諸子ノ前途亦多望ナリト謂フヘシ諸子はヨリ
 出テ、事ニ當ラバ各其ノ學ベル所ヲ運用シテ敏活周到飽クマテ自家ノ從事スル
 所ニ忠實ナランコトヲ努ムルト共ニ能ク世界ノ大勢ニ通曉シテ偏狹ニ失セス益
 浪ニ流レス隨處ニ成功ヲ收メンコトヲ圖リ之ヲ貫クニ堅忍不拔剛健質實ナル精
 神ヲ以テシ下ハ以テ身ヲ立テ業ヲ成シ上ハ以テ國運ノ發展ニ獻貢センコトヲ期
 セヨ

卒業生總代謝辭

増田俊雄(佛語演述)

Monsieur le Directeur, Messieurs les Professeurs,

Nous nous souviendrons toujours avec reconnaissance de cette cérémonie solennelle, honorée de la présence de Son Excellence Monsieur le Ministre de l'Instruction publique et d'autres personnalités éminentes,—cérémonie au cours de laquelle vous avez bien voulu nous remettre les diplômes qui sont le couronnement de nos études.

Nous rappelant en ce jour les bons conseils dont vous nous avez comblés, les efforts incessants que vous avez faits trois années durant, nous regrettons vivement de ne pouvoir trouver des mots suffisants pour exprimer les sentiments de respect et de gratitude qui remplissent notre cœur. Ils y resteront toujours, soyez-en certains: en quelque lieu, en quelque pays que nous appelle notre carrière, jamais ne se rompront les liens jussants qui nous attachent à cette Ecole.

Aujourd'hui, l'usage des langues étrangères étant largement répandu, il nous est permis de croire qu'un avenir brillant s'ouvre devant nous. Mais d'autant plus loinde est la responsabilité qui pèse sur nos épaules, et nous fait un devoir de nous consacrer à développer notre valeur personnelle, morale aussi bien qu'intellectuelle, que les difficultés de la vie vont mettre à l'épreuve.

明治四十二年三月卒業式ニ於ケル演說祝辭等

百二十三

Son Excellence Monsieur le Ministre de l'Instruction publique, ainsi que Monsieur le Directeur viennent de prononcer des paroles heureuses qui nous émeuvent profondément, et nous nous engageons à suivre fidèlement leurs précieux conseils. Nous suivis us aussi avec empressement l'occasion qui se présente d'adresser nos remerciements à Monsieur le Ministre de l'Instruction publique et des Beaux-Arts de la République française, qui, depuis plusieurs années, ne cesse de témoigner l'intérêt qu'il porte à la Section française, en offrant des prix à ses meilleurs élèves.

Monsieur le Directeur, Messieurs et chers Professeurs, la vie va nous disperser; mais, si nous nous séparons de vous, c'est avec la promesse de remplir notre devoir dans la carrière où nous allons entrer, pour la gloire et la prospérité de notre chère patrie, pour l'honneur de notre chère Ecole.

TOSHIIO MASUDA

de la Section française.

發聲部三郎(伊語演述)

Illustrissimo Signor Direttore, Esimi Professori.

Mi permettano che a nome di tutti i licenziati esprima loro i nostri vivi sentimenti di profonda riconoscenza per averci conferito i diplomi in questa solenne e sempre memoranda cerimonia, onorata dalla presenza di illustrissimi personaggi ufficiali e privati.

E nello stesso tempo, mentre umilmente mi faccio lecito di offrire i nostri caldi ringraziamenti per le parole benevole, rivolte testè a noi così da Sua Eccellenza il Ministro della Pubblica Istruzione, come dal Direttore, attesto sinceramente a loro Professori che non sappiamo come esprimere loro la nostra più cordiale gratitudine per le cure usateci, grazie alle quali abbiamo felicemente compiuto i nostri tre anni di studio.

Questo giorno ci desta in mente una dolcezza mista alquanto di timore, poichè dopo aver passato tranquillamente molte ore felici con loro dobbiamo ora gettarci nella lotta per l'esistenza; ma noi cui la coscienza è mai sempre guida in ogni azione, e che ci siamo annati della cognizioni delle lingue estere, combattiamola fino alla morte, sforzandoci costantemente da una parte di coltivare il nostro carattere personale, e di sviluppare le nostre facoltà intellettuali, e dall'altra assumendo il sacro mandato di contribuire anche in tenue misura al progresso dell'amatissima nostra patria.

A considerar le presenti condizioni del nostro paese non possiamo ancora dire d'esserne contenti. Quantunque il Giappone recentemente sia riuscito ad elevare il suo posto a tal grado da esser considerato come una delle Prime Potenze, dobbiamo riconoscere che molte conquiste gli restano ancora a far nel campo della civiltà. Ed il miglior modo di intradurre la civiltà mondiale, in un'altra parola, di render più che mai frequenti ed intime le relazioni fra la nostra nazione e le altre, sarà, crediamo, prima di tutto la diffusione delle lingue e della cultura degli altri popoli.

Di qui appaure quanto gravi sieno i doveri che ci incombono, qualunque sia il ramo dell'umana attività a cui noi ci dedichiamo. Ma noi siamo preparati per adempierli: lanciandoci dunque baldi e fidanti nell'aspro campo della lotta per la civiltà.

In fine coll'assicurazione che, in qualunque luogo ci troviamo, i loro amorevoli consigli ci sorreggeranno ne' nostri sforzi indelessi per la realizzazione delle nostre aspirazioni, e che, anche lontani, saremo, finchè respiriamo sulla terra, sempre vicinissimi al oro col cuore, rinnovo i nostri profondi ringraziamenti per la loro benevolenza e prendo commiato da loro anche a nome de' miei compagni.

RISABURO FUKASAWA.
del Corso d'italiano.

專修科修業生總代謝辭

山根 藤 七 (清語演述)

今年本學堂大考試已經都完了,今天舉行卒業式,我們清語專修科的學生們也領了修業的文憑,真是喜歡的很了,可是今天蒙文部大臣和內外貴紳衆位的光臨,這實在是我們的光榮。

想起二年以前我們初入本學堂的時候,彷彿是個剛生的嬰兒一樣,這清國的語言別說甚麼叫四聲重念腔調兒不知道,就連一三三四的口音一點兒也不懂的,而且我們專修科的學生們大概是平常沒有多工夫兒,因為這個隨學隨忘的不少,雖然有這麼些個難處,現在可好容易卒了業了,這是誰的恩惠呢?若不是校長和諸位先生非常的費心,我們幾二年的工夫兒怎麼能到了這個地步呢?我們可不知道怎麼謝這個大恩呢,然而我們想現在世界各國的眼光,都聚在我們東洋各國,其中最重要的就是日本和清國呀,我們遇見這麼樣兒的機會可辦的事很多,現在雖然所學的還不多,若能盡心竭力的把所學的話使用出去,就是一點兒也要叫長進國家的利益,這就是我們的心願,所以將來趁機會認真盡各人的責任,纔可以算報答校長和諸位先生恩惠的萬分之一,這個事可真

不容易、我們今天雖然離開這學堂不來上功課、後來也免不了有常常要請教的事情、還盼望諸位先生永遠多多教訓我們。
今天我替我們今年的修業生們說這幾句話、為得是聊表感謝的誠心就是了。

東洋語速成科修業生總代謝辭

柳田光之助 (支那語演述)

Grauvangale,

Namundaiya pullikkudatil Kildosha bashaiyin vahappuhail paditten ternda en sinelihar-
hulukkaha nam ippoludu pesuliven. Inriyudimam nam vidhaya Mantri avarahalaku munnilam
itara grauvangalaku munnilam nirukundu enundaiya upanivrasalai padikka enakka rombayam
Santoshanay enkkiradu. Ividatil nunggal santoshanay irundadam tavira aramidiyana padippai
padikkavum bakkiyam seydon.

Metta porunaiyay engalaku bodhite upadidiyayenudaiya nargumalai kuritta nunggal vistar-
thelolla lagudiyam varthigalai Kanupidikka nilayam Kashaamay irukkiradu. Etti mandangal
nunggal gavamatin kil irundom. Oru anniya bashayay Sampiranamay padikka inda konja kalam
pohdu. Anulum nunggal inda bashaiyay nunggal pinayojanupadittam vithalai katrukodettu
irukkirin.

Nunggal enge ponalum nungaludaiya dayyai onpohdam narakka matton. Ungaludaiya
upaharathai tiruppikottuvudakkaha nunggal viyapuram Seyyappohirin. Adutan namundaiya
deshattirku shalippai utakkum.

Mudiyala, enundaiyavum, enundaiya sineliharhuludaiyavum namri ariyai inda sarkarun-
ku katham vishayatil nam namupadiyana vandanan selatulinen—M. Yanagita.

不容易我們今天雖然離開這學堂不來上功課後來也免不了有常常要請教的事情、還盼望諸位先生永遠多多教訓我們。
今天我替我們今年的修業生們說這幾句話、爲得是聊表感謝的誠心就是了。

東洋語速成科修業生總代謝辭

柳田光之助 (タニル語演述)

Ganavangale,

Nanamdaiva pallikkadatti Kildesha bashayin valappuhil peditta leruda en sinhidar-
lulakkaha nan ippoladu pesuhiren. Inrayadivaru nan viddiya Maniri avayalaku munthim
ithu ganavangalaku munthim munthim munthim annudaiya upanayasaku pedikka enaku romlavum
Santoshamay orukiradu. Iyidattil nunggal santoshamay irundadum tavira avanaiyaru paddipai
pedikkavum bakkiyan seydom.

Metta porunaiyay engulaku beditta upadidiyayandaiya nunggalai kurittu nunggal vistari-
lucholla tugudiyaru vartagalai Kandupittike maharum Kashtamay irukkiradu. Etnu madangal
nunggal sevuntin kil irundom. Oru anniya bashayay Saupuramay pedikka inda konja kadam
poladu. Analan nunggal inda bashayay nunggal pirayonupadutun vidattai kettukkoluntun
irukkirin.

Nunggal engu ponalan nungaldaiya dayavi orupolunni maruka matom. Ungaludaiya
upaharattai tiruppkattavadarukaha nunggal viyaperan Seyyappohom. Adarhan nyanudaiya
deshattirku shelippai undakkum.

Mudiyala, annudaiyavum, annudaiya sinhidarhuludaiyavum nani arivai inda, sarkkaru-
ku kutun vishayattil nan marupadiyaru vandanan selathuniren—Mi. Yamagita.

本科生徒府縣別表

(明治四十二年六月一日調)

府 分	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	級年三	級年二	級年一	計
北海道	三	一	一	四	二	一	三	四	四	二	一	一	三	二	一	一	一	一	六
東京	三	七	三	四	二	七	三	六	八	一	三	四	四	二	一	二	一	一	七
京都	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
大阪	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七
神奈川	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
兵庫	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	三
長崎	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一〇
新潟	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一三
埼玉	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	五

本科生徒府縣別表

百三十一

本科生徒府縣別表

德島	和歌山	山口	廣島	岡山	島根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形	青森	岩手
一		一		一	三						一		
一	一	三	二	一									一
								一					
		三						一		一			
		三				一				一			
	一				一					一			
													三
								一	一				一
	一									一			
				二				一	一				
				一				一					
	一	一						一					一
				一	三								
						一							
一				三									一
										一			
						一		一					
					三								一
六	六	一五	三	一〇	九	四	五	五	五	四	九	六	七

百三十三

福島	宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城	千葉	群馬
一		四				一	三	一				一	
	一	四	一			三				三		一	一
	一	四					四	二		二		三	一
			一				一		一			一	
一		一	一				三					一	
					二			一			一	三	
		二					一					一	一
一	一		一				一	一			三	一	一
		三	一								一	三	
	一						一				一	三	
		一											
	一						四	一					三
							一						
一				一			二			一	一	三	三
二	一	一	一				三	三	三		三	三	
							一	一				一	
三													
九	八	三	八	一	七	一四	一九	一四	三	一〇	一六	二五	八

百三十二

專修科生徒府縣別表

府	縣	英語學科		佛語學科		獨語學科		露語學科		伊語學科		西語學科		清語學科		韓語學科		計	
		級年二	級年一	級年二	級年一	級年二	級年一	級年二	級年一	級年二	級年一	級年二	級年一	級年二	級年一				
北海道		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東北	青森	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	岩手	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	秋田	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	山形	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	福島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
關東	東京	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	千葉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	埼玉	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	群馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	茨城	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	栃木	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	群馬	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	新潟	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	長崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	兵庫	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	神奈川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大阪	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	京都	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	東海	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	北陸	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	關西	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	四國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	九州	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	香川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	愛媛	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	高知	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	福岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	大分	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	佐賀	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	熊本	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	宮崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	鹿兒島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	沖繩	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	外國	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	合計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

專修科生徒府縣別表

(明治四十二年六月一日調)

府	縣	英語學科	佛語學科	獨語學科	露語學科	伊語學科	西語學科	清語學科	韓語學科	計
香川		—	—	—	—	—	—	—	—	—
愛媛		—	—	—	—	—	—	—	—	—
高知		—	—	—	—	—	—	—	—	—
福岡		—	—	—	—	—	—	—	—	—
大分		—	—	—	—	—	—	—	—	—
佐賀		—	—	—	—	—	—	—	—	—
熊本		—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮崎		—	—	—	—	—	—	—	—	—
鹿兒島		—	—	—	—	—	—	—	—	—
沖繩		—	—	—	—	—	—	—	—	—
外國		—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計		—	—	—	—	—	—	—	—	—

專修科生徒府縣別表

愛媛	香川	徳島	和歌山	山口	廣島	岡山	鳥根	鳥取	富山	石川	福井	秋田	山形
							一			一			
	一	一		三	二	二	一	一		一		三	二
三				三	一								
一			一				一		一	一			二
		一	一								一	一	
一	一	一		二	二	三			一	一	一		
									一				
	二	一				二			一				
四	四	四	二	八	五	八	四	三	四	六	四	五	四

青森	岩手	福島	宮城	長野	岐阜	滋賀	山梨	静岡	愛知	三重	奈良	栃木	茨城
					一				二		一		二
	一	一	一	三	二	一		六	四	四	二	二	一
				一		一			一				
	三				三			二	一	一	一	一	三
											二	一	
一		二		五	二		一	一	三	三		二	三
	一	一	二							二			
				一	一			一	一				
一	五	七	八	一	八	二	五	一	一	四	三	七	八

富山	廣島	徳島	香川	大分	佐賀	熊本	鹿兒島	外國	合計
									八
									九
									四
									二
									三

東京外國語學校校友會規則

第一章 名稱及ヒ目的

第一條 本會ハ東京外國語學校校友會ト稱ス
 第二條 本會ハ會員ノ交誼ヲ厚ウシ心身ヲ鍛鍊スルヲ以テ目的トス

第二章 會員

第三條 本會ハ左ノ會員ヲ以テ組織ス
 一 正會員
 一 特別會員
 一 贊助會員
 一 名譽會員
 第四條 本校本科生及ヒ選科生ハ正會員タルヘキモノトス
 第五條 本校職員ハ特別會員タルヘキモノトス
 第六條 本校卒業生ヲ贊助會員トス
 第七條 本校ニ縁故アリ本會ノ目的ヲ賛成スルモノヲ會長ノ推薦ニヨリテ名譽會員トス

第三章 會費及ヒ寄附

第八條 正會員ハ入會金壹圓及ヒ會費年額金參圓ヲ納ム可シ
但入會金ハ入學ノ際ニ之ヲ納メ會費ハ三回ニ分チテ每學期授業料ト同時ニ納ム可シ

第九條 特別會員ハ會費トシテ每月俸給月額百二十五分ノ一ヲ納ム可シ但四捨五入ヲ以テ錢位ニ止ム

第十條 名譽會員及ヒ贊助會員ハ會費ヲ納ムルコトヲ要セス

第十一條 有志者ヨリ金圓又ハ物品ノ寄附ヲ受ケタルトキハ本會ノ記録ニ掲クヘキモノトス

第四章 部門

第十二條 本會ニ左ノ四部ヲ置ク

第一 武術部

第二 陸上運動部

第三 水上運動部

第四 文藝部

但各部ノ細則ハ別ニ之ヲ定ム

第五章 役員

第十三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

但必要ノ場合ニハ臨時委員ヲ置クコトヲ得

會長	一名	副會長	一名
部長	四名	評議員	十五名以內
幹事	十七名 <small>第一部三名、第二部三名、 第三部六名、第四部五名、</small>	委員	各級一名
主計	一名	録事	一名

第十四條 會長ハ東京外國語學校長之ニ當ル

第十五條 會長ハ本會一切ノ事務ヲ總理ス

第十六條 副會長ハ特別會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第十七條 副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

第十八條 部長ハ委員會ニ於テ特別會員中ヨリ選舉シ會長之ヲ囑託ス

第十九條 部長ハ各部ノ事務ヲ掌理ス

第二十條 評議員ハ特別會員及ヒ贊助會員中ヨリ會長之ヲ囑託ス

第二十一條 評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ本會ノ重要ナル事項ヲ審議ス

第二十二條 幹事ハ委員會ニ於テ正會員中ヨリ選舉シ會長之ヲ任命ス

第二十三條 幹事ハ部長ヲ輔ケテ各部ノ事務ヲ處理ス

第二十四條 委員ハ各級ヨリ一名ヲ互選シ本會一切ノ事項ヲ評決ス

第二十五條 主計ハ本校ノ會計課員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會一切ノ出納ヲ掌ル

第二十六條 録事ハ本校事務員中ヨリ會長之ヲ囑託シ本會ノ記録ヲ掌ル

第二十七條 本會役員ノ任期ハ滿一箇年トス但毎年四月ヲ以テ任期ノ始トス

第二十八條 各役員會ハ半數以上ノ出席者アルニアラサレハ成立セサルモノトス

第六章 豫算及ヒ決算

第二十九條 豫算ハ各部幹事之ヲ編成シ部長會ノ査定ヲ經テ委員會ノ議ニ附シ會長ノ認可ヲ經テ之ヲ決定ス

第三十條 會計年度ハ四月一日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第三十一條 決算ハ毎年六月末日マテニ委員會ニ報告シ其承認ヲ受クヘシ

第七章 規則改正

第三十二條 本會規則ハ委員會ノ決議ニヨリ會長ノ認可ヲ經テ改正スルコトヲ得

附則

本則ハ明治三十九年十一月三日ヨリ全部施行ス

東京外國語學校內東京外國語學會規則

第一章 名稱

第一條 本會ハ東京外國語學會ト稱ス

第二章 目的

第二條 本會ハ外國語學ノ獎勵ヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ諸外國ノ近世語及ヒ古語ノ研究講習編纂翻譯ニ從事スルモノトス

第三章 會員

第四條 本會々員ヲ分テ通常會員、特別會員ノ二種トス

一、通常會員 東京外國語學校職員

二、特別會員 本會ノ目的ヲ贊成シソノ事業ヲ助クルモノニシテ通常會員三分ノ二以上ノ同意ヲ經テ入會シタルモノ

第四章 役員

第五條 本會ニ理事三名ヲ置キ本會全般ノ事務ヲ管理セシム

第六條 理事ハ通常會員中ヨリ互選ス

第五章 部門

第七條 本會ニ左ノ三部ヲ置ク

第一 講究部

第二 編輯部

第三 翻譯部

第六章 講究部

第八條 講究部ハ諸外國語及其教授法ヲ講究スルヲ以テ目的トシ必要ニ應シテ講習會ヲ開設ス

第七章 編輯部

第九條 編輯部ハ諸外國語ノ字書、文法書、其他ノ編纂事業ニ當ルモノトス

第八章 翻譯部

第十條 翻譯部ハ諸外國語ニ係ル翻譯ニ從事スルモノトス

第十一條 本部ノ附屬事業トシテ公私ノ依頼ニ應シテ左ノ外國語ノ翻譯ヲナスコトアルヘシ

一、近世語 英、佛、獨、露、伊、西、清、韓、和、蘭、葡、荷、牙、丁、抹、瑞、典、那、威、暹、羅、馬、來、タ、ガ、ラ、土、耳
其、蒙、古、滿、洲、西、藏、印、度

二、古語 アリヤン語、セミチック語

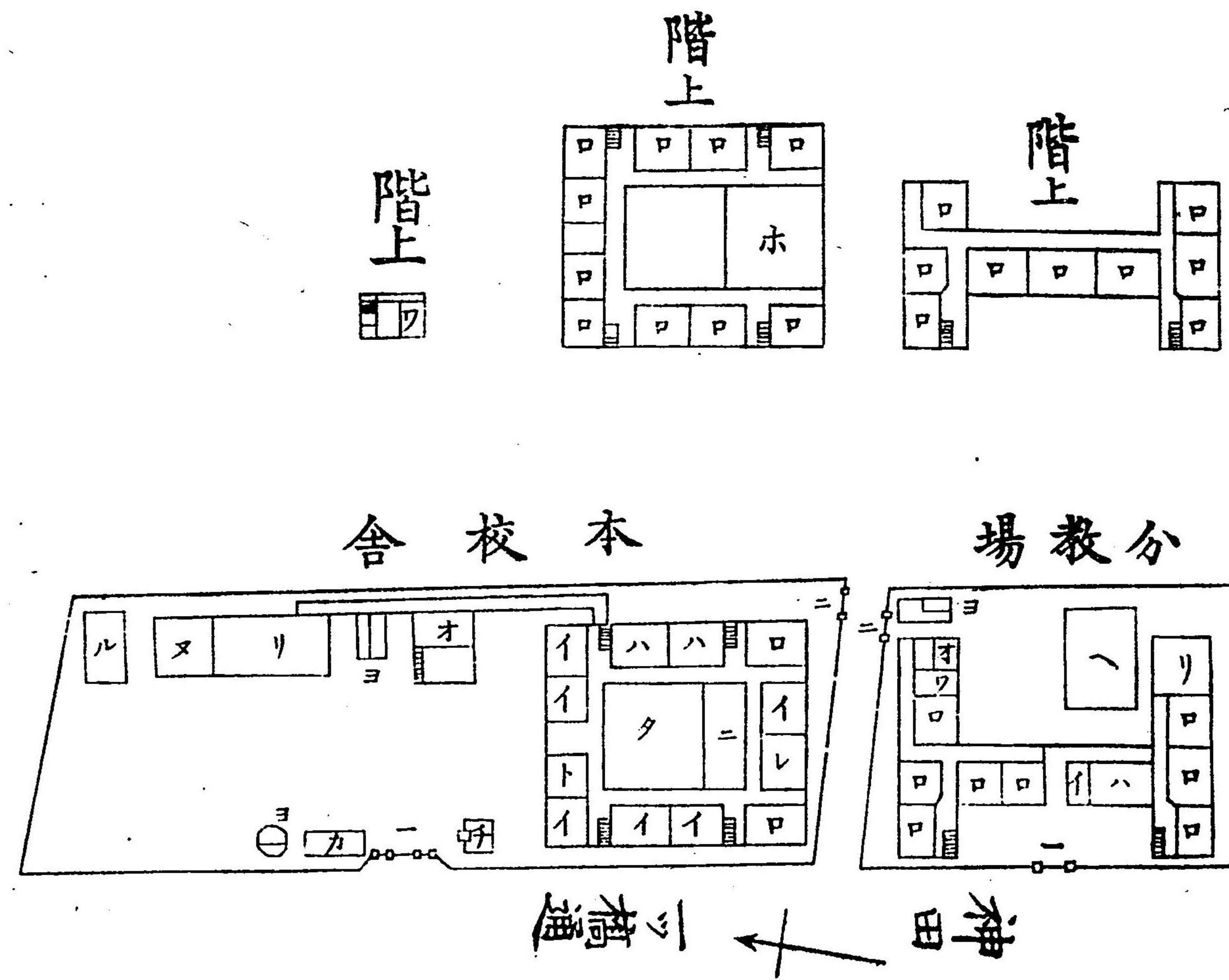
第九章 規則改正

第十二條 本會規則ノ改正ハ通常會員三分ノ二ノ同意ヲ要ス

東京外國語學校建校物略圖

縮尺二千分之一

レ タ ヨ カ フ オ ル ヌ リ チ ト ヘ ホ ニ ハ ロ イ ニ 一
 書 中 便 供 宿 小 物 銃 生 巡 應 道 講 圖 教 教 事 通 正
 待 直 使 室 室 置 室 所 所 所 場 室 所 室 室 室 門 門
 庫 庭 所 所 室 室 置 室 所 所 所 場 室 所 室 室 室 門 門



明治四十二年八月五日印刷

明治四十二年八月十日發行

東京市神田區錦町三丁目

東京外國語學校

電話本局六〇六番

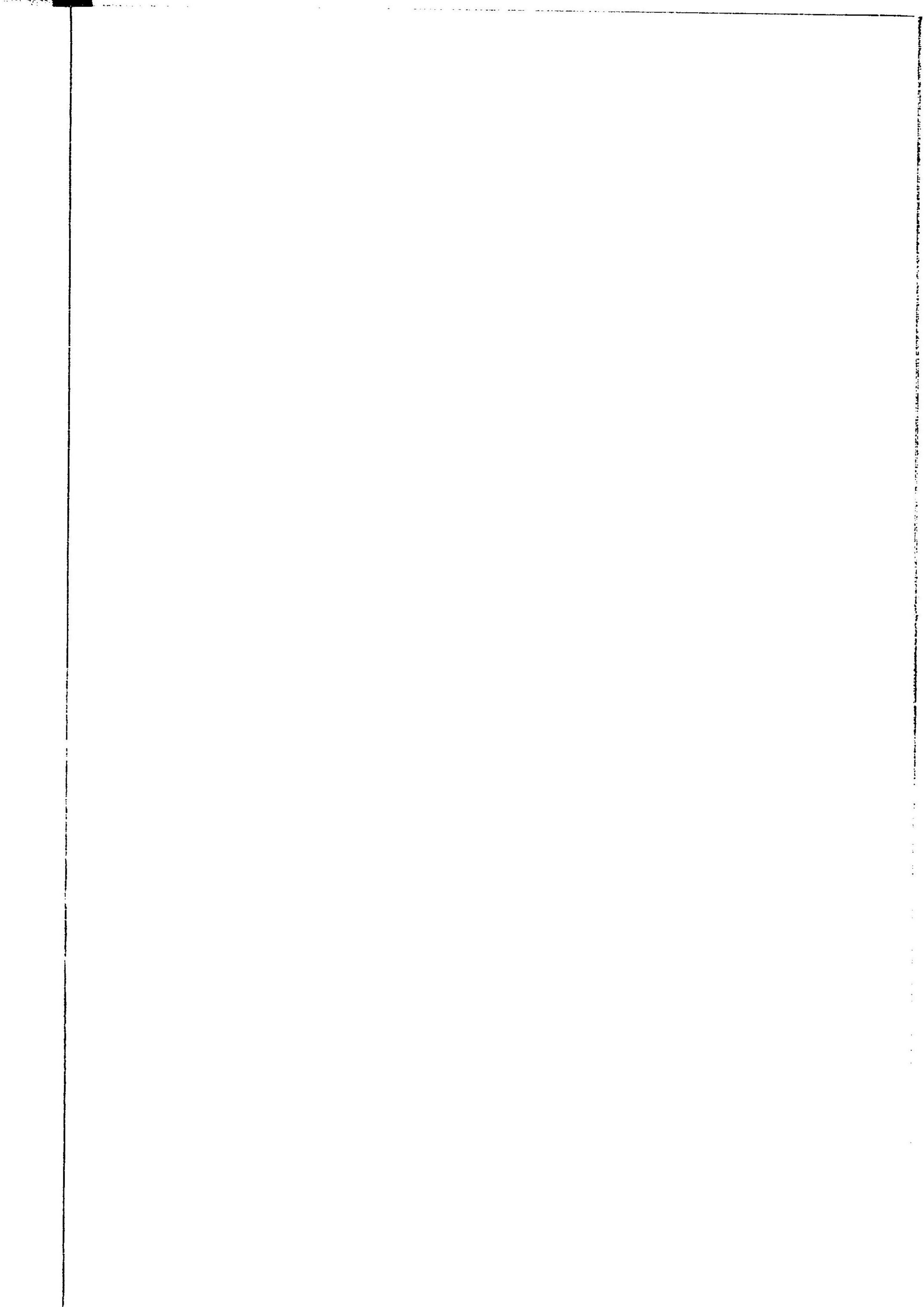
印刷者 島 連 太郎

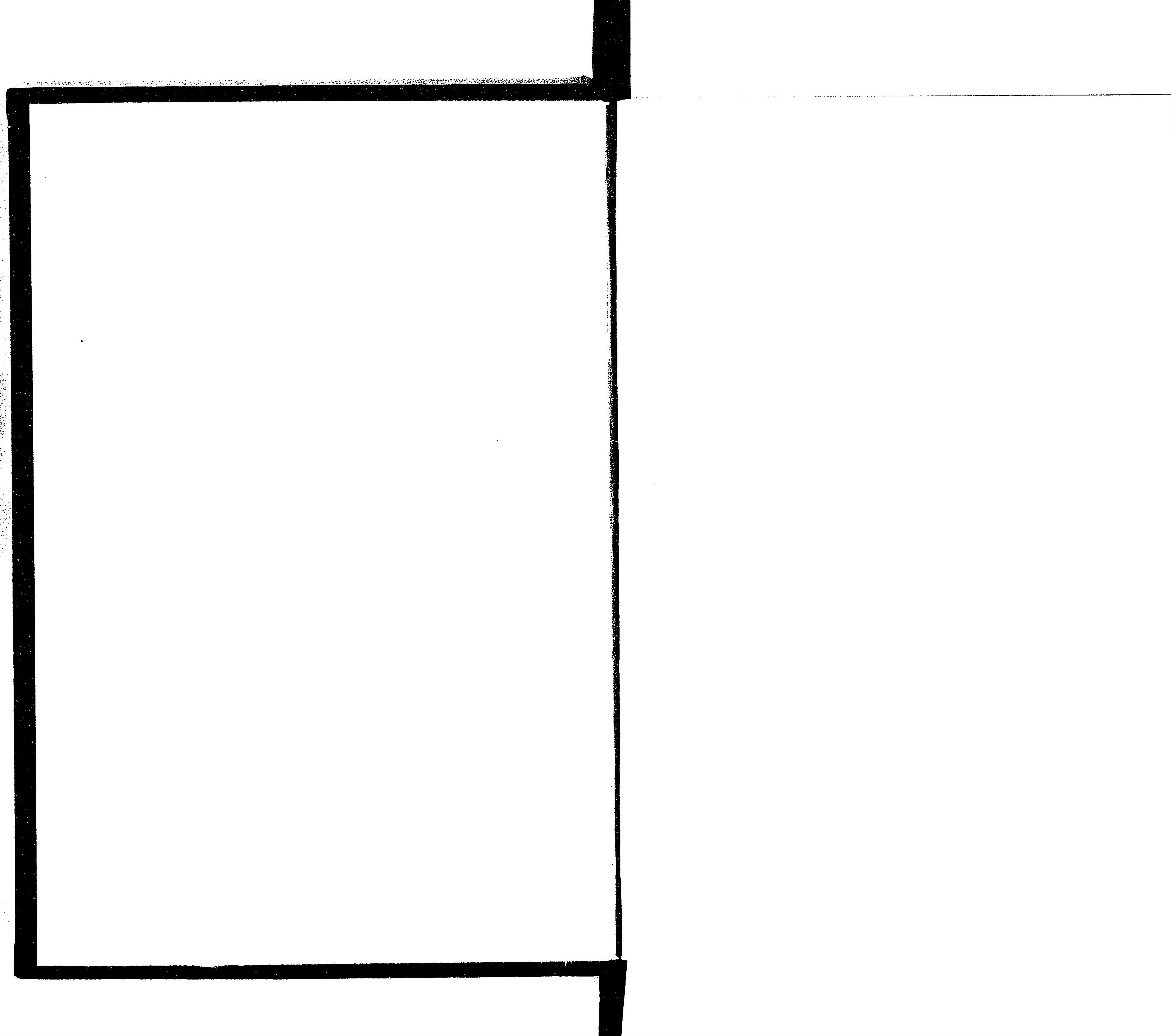
東京市神田區美土代町
二丁目一番地

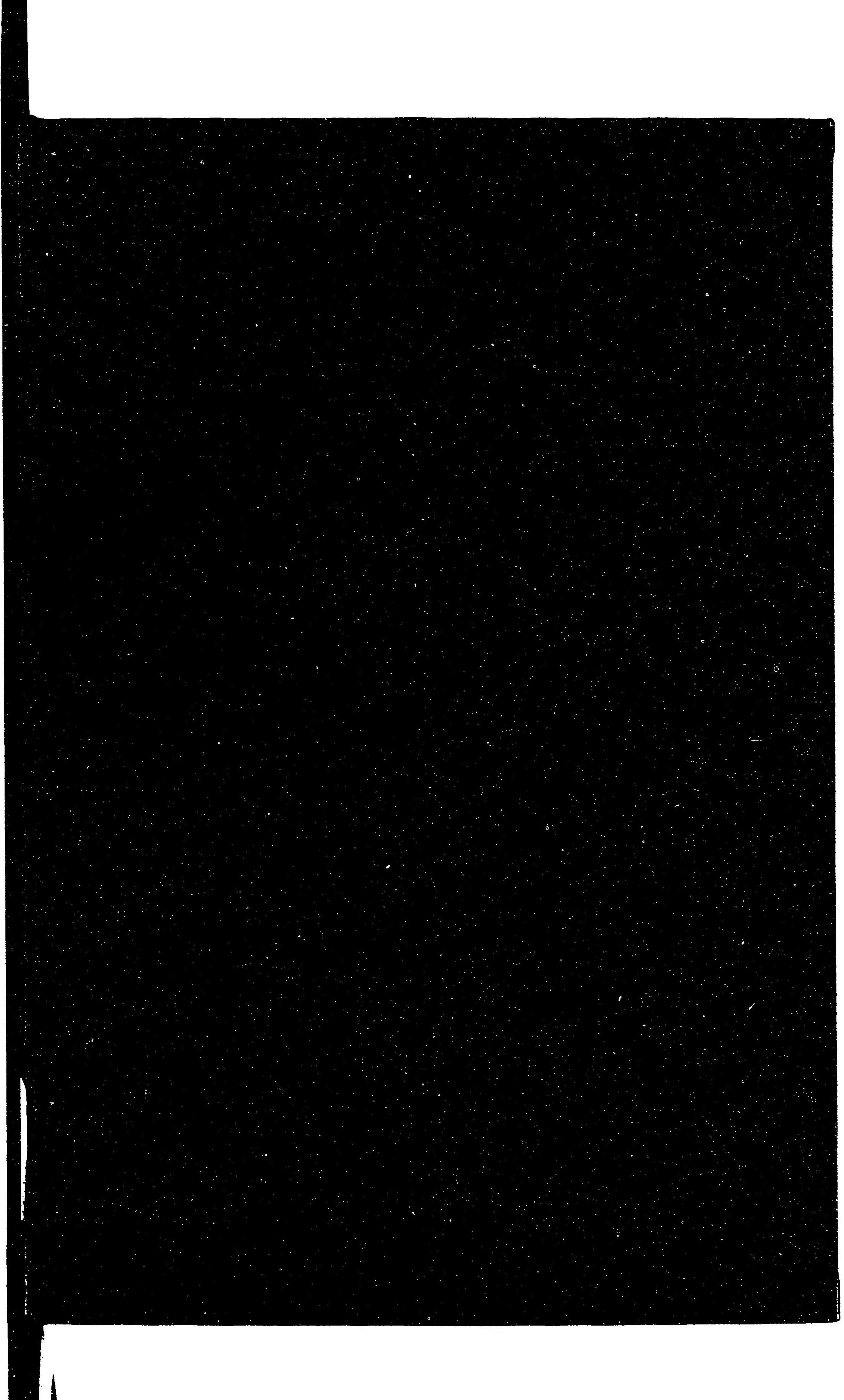
印刷所 三 秀 舍

東京市神田區美土代町
二丁目一番地

IT 5M 69







2935

1

